

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 2-1ピット ②層の記載)

作成日 2022 7/5 作成者 [redacted] 確認日 2022 7/5 確認者 [redacted]

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されている <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由 (スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
スケッチ原図(北面下部)	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 主に上部が礫混じり砂質シルトからなる。 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 下部はシルト質砂礫からなる。 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫率50～60% 礫は主に径50cm以下の風化したGp・Gr亜角礫が多い。 基質は砂質シルトからなる。</p>	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 主に上部が礫混じり砂質シルトからなる。 明褐色～淡黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 下部はシルト質砂礫からなる。 明褐色～淡黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫率50～60% 礫は主に径50cm以下の風化したGp・Gr亜角礫が多い。 基質は砂質シルトからなる。</p>		
スケッチ原図(北面上部)	<p>礫混じり砂質シルト 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6)。</p>	<p>礫混じり砂質シルト 明褐色～淡黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6)。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 北面上部の記事は観察面が狭いため不採用とした。 シルト質砂礫の礫径は、②層の観察面が広い南面下部、北面下部の記事(50cm以下)を採用した。 礫の形状はスケッチ原図(北面下部、正面壁面)で記載されている亜角礫を代表的な形状とした。 色調(明褐色～明褐色)と色調を表す記号(7.5YR7/1～7.5YR8/6)が不一致であったため、観察面写真を確認して色調の記事を修正した。
スケッチ原図(南面下部)	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に東側に分布する。 西側のシルト質砂礫は礫混じり砂質シルト中に層状に含まれる。 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫。 礫は下部ほど細粒だが、含有量は多くなる。 一部に堆積構造が見える。 基質は主にシルト質中粒砂。 シルト質砂礫の礫は主に径50cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫を含む。 礫率50～60% 基質は砂質シルトからなる。</p>	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に東側に分布する。 西側のシルト質砂礫は礫混じり砂質シルト中に層状に含まれる。 明褐色～淡黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫。 礫は下部ほど細粒だが、含有量は多くなる。 一部に堆積構造が見える。 基質は主にシルト質中粒砂。 シルト質砂礫の礫は主に径50cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫を含む。 礫率50～60% 基質は砂質シルトからなる。</p>	<p>②層: 礫混じり砂質シルト: 明褐色～淡黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6)。礫は径5cm以下の風化礫。下部ほど細粒。 シルト質砂礫: 礫径50cm以下の亜角礫を含む。</p>	
スケッチ原図(正面壁面)	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に下部に分布。上部は礫混じり砂質シルトが主体。 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 一部に堆積構造が見える。 シルト質砂礫の礫は主に径30cm以下の風化したGp・Grの亜角礫を含む。 礫率15～60% 基質は砂質シルトからなる。</p>	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に下部に分布。上部は礫混じり砂質シルトが主体。 明褐色～淡黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 一部に堆積構造が見える。 シルト質砂礫の礫は主に径30cm以下の風化したGp・Grの亜角礫を含む。 礫率15～60% 基質は砂質シルトからなる。</p>		

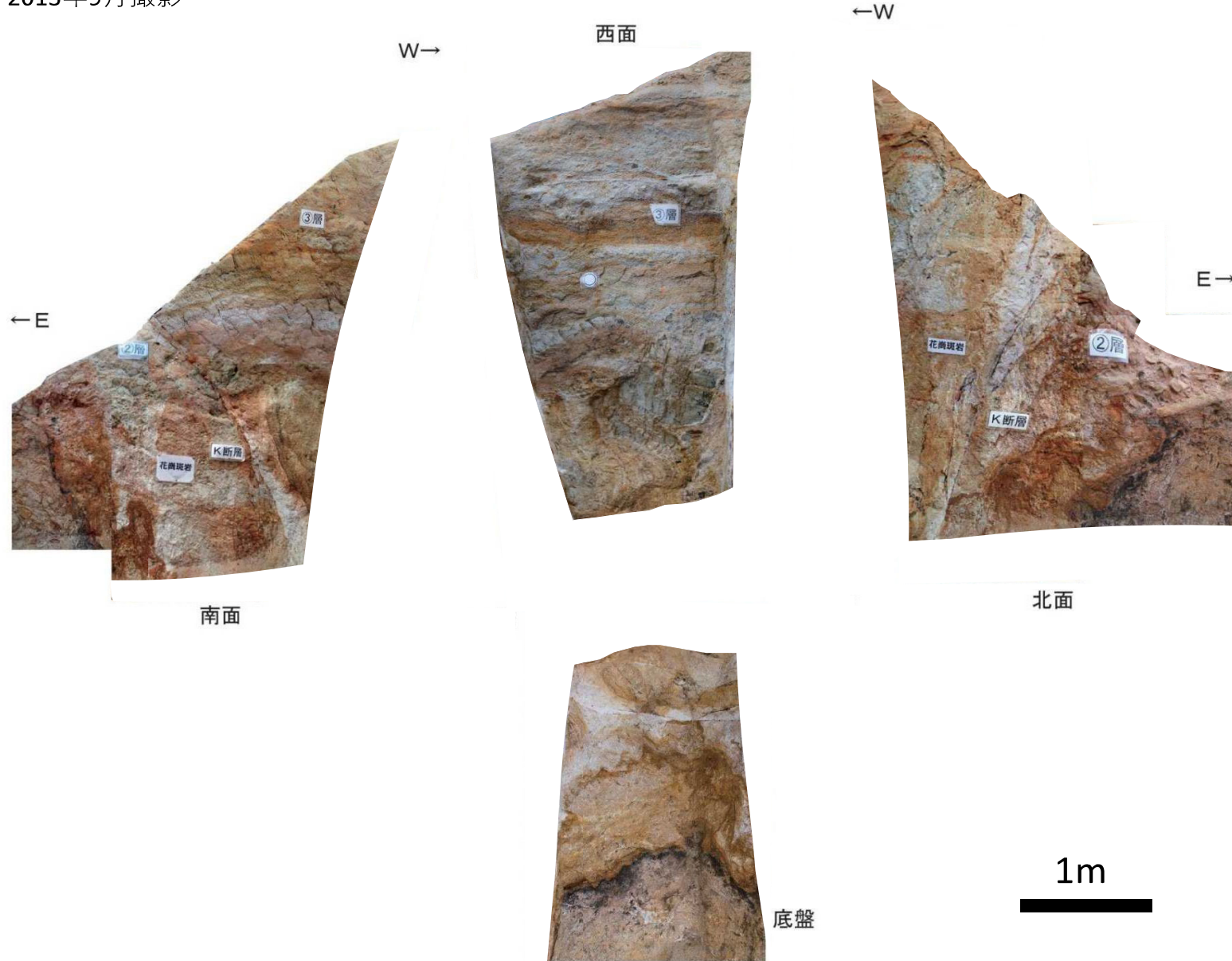
スケッチ原因⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 2-1ピット_③層の記載)

No.	スケッチ原因		報告書スケッチの記事	スケッチ原因(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原因(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	選定した記事内容	
	スケッチ原因から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	追加変更した情報が正しく転記されている <input checked="" type="checkbox"/>		
スケッチ原因 (北面下部)	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。		
スケッチ原因 (北面上部)	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。 礫は主に径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに15cm程度の礫を含む。 砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。 礫は主に径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに15cm程度の礫を含む。 砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。		
スケッチ原因 (南面下部)	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。 砂礫層を挟み、淘汰が悪い。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。 砂礫層を挟み、淘汰が悪い。	礫混じりシルト質細砂、橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。基質はシルト、細～中砂主体。砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。礫は径5cm以下の風化花崗岩の垂角礫主体。径15cmのものもみられる。	・シルト層、シルト質砂層の挟みは局所的なもののため不採用とした。 ・礫径の最大礫35cmは局所的な性状のため記載しない。 ・色調(浅黄橙色)の記号を追加した。
スケッチ原因 (南面上部)	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。淘汰が悪い。 シルト質砂層を挟む。 礫は径2～5cmの風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに15cm(最大35cm)程度の礫を含む。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。淘汰が悪い。 シルト質砂層を挟む。 礫は径2～5cmの風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに15cm(最大35cm)程度の礫を含む。		
スケッチ原因 (正面壁面)	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。シルト層、砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに径15cm程度のものも見られる。 ラミナが明瞭なところあり。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。シルト層、砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに径15cm程度のものも見られる。 ラミナが明瞭なところあり。		

D-1トレンチ2-1ピット全体写真

80のエビデンス (13/13)

2013年9月撮影



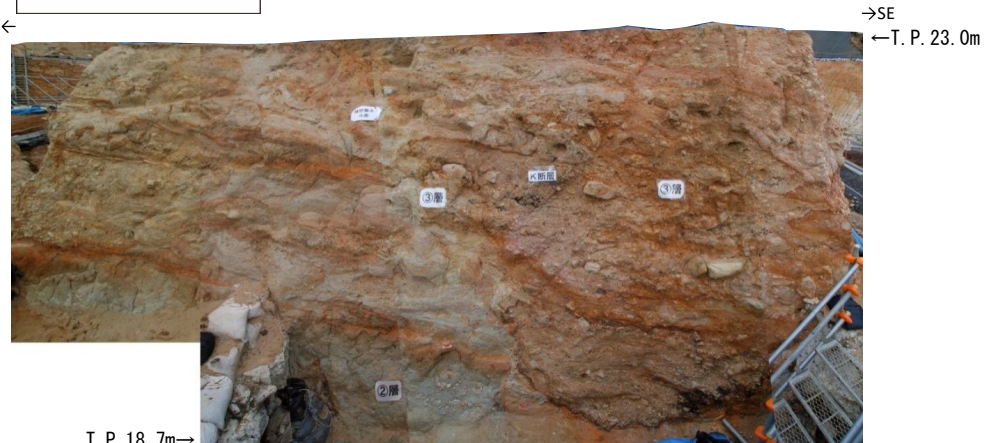
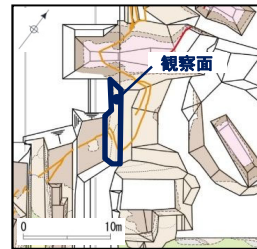
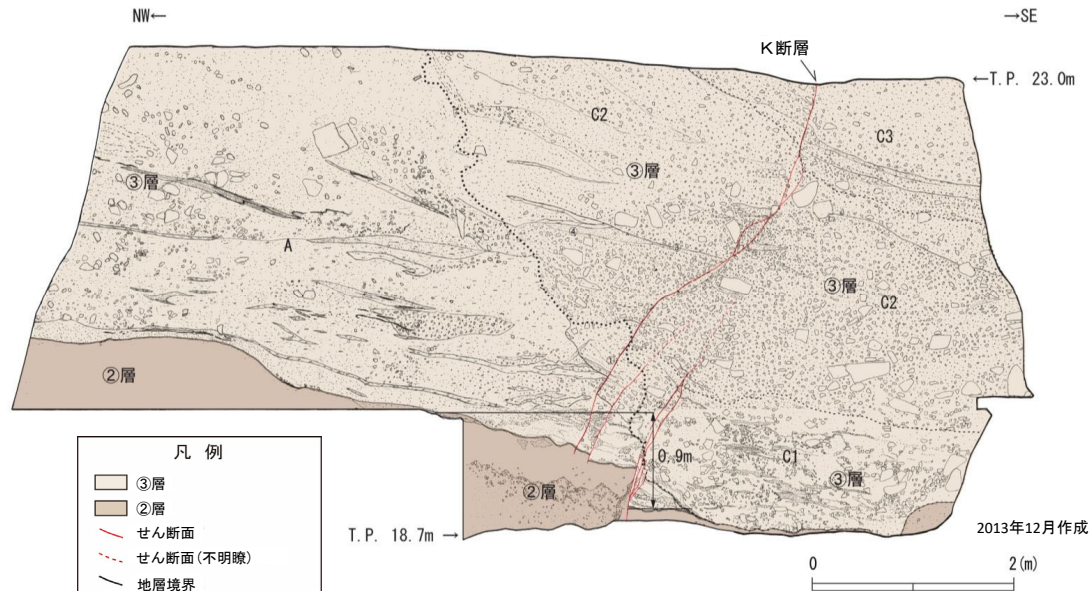
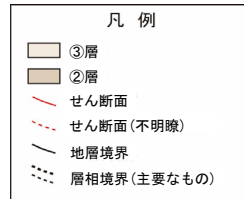
余白

K断層の性状(擁壁撤去法面)

修正箇所：橙色枠

- ②層：礫混じりシルト質砂：褐灰色～浅黄橙色 (7.5YR6/1～10YR8/4)
 基質はシルト、細～中粒砂であり、礫は径100mm以下の角～亜角礫主体である。全体的にやや軟質で北西側ほど硬質となる。
 ②層上限面の傾斜は、K断層の上盤側で10°程度で、下盤側でほぼ水平を示す。
- ③層
 A層：礫・シルト混じり砂：浅橙色～浅黄橙色 (5YR8/3～10YR8/3)
 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。
 基質は細～粗粒砂主体であり、レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。
- C1層：砂礫：明黄褐色～にぶい橙色 (10YR6/6～7.5YR7/3)
 礫率30～60%であり、レンズ状に砂層を挟む。
 礫混じり砂質シルト：淡赤橙色～灰白色 (2.5YR7/3～7.5YR8/1)
 基質は細～中粒砂であり、淘汰はやや良い。
 礫は径40mm以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
- C2層：砂礫：にぶい橙色～明黄褐色 (7.5YR7/3～10YR6/6)
 礫率30～60%であり、淘汰はきわめて悪い。
 礫は径200mm以下の風化を受けた角～亜角礫主体である。
 基質は中～粗粒砂であり、レンズ状に中～粗粒砂の砂層を含む。
- C3層：礫質砂：にぶい橙色～浅黄橙色 (5YR6/4～7.5YR8/3)
 礫は径100mm以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
 基質は中～粗粒砂で、淘汰はやや悪い。

- ① f: N26° E57° W
 ② f: N19° E48° W
 ③ b: N66° E14° S
 ④ b: N6° E12° E
 f: せん断面
 b: 層理面



- D-1トレンチ擁壁撤去法面では、②層、③層を逆断層センスで変位させるK断層が認められる。
- ②層上面の鉛直変位量は、撓曲変形を含めて約0.9mである。

- D-1トレンチ擁壁撤去法面では、②層、③層を逆断層センスで変位させるK断層が認められる。
- ②層上面の鉛直変位量は、撓曲変形を含めて約0.9mである。

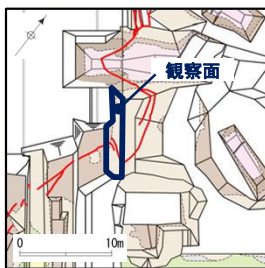
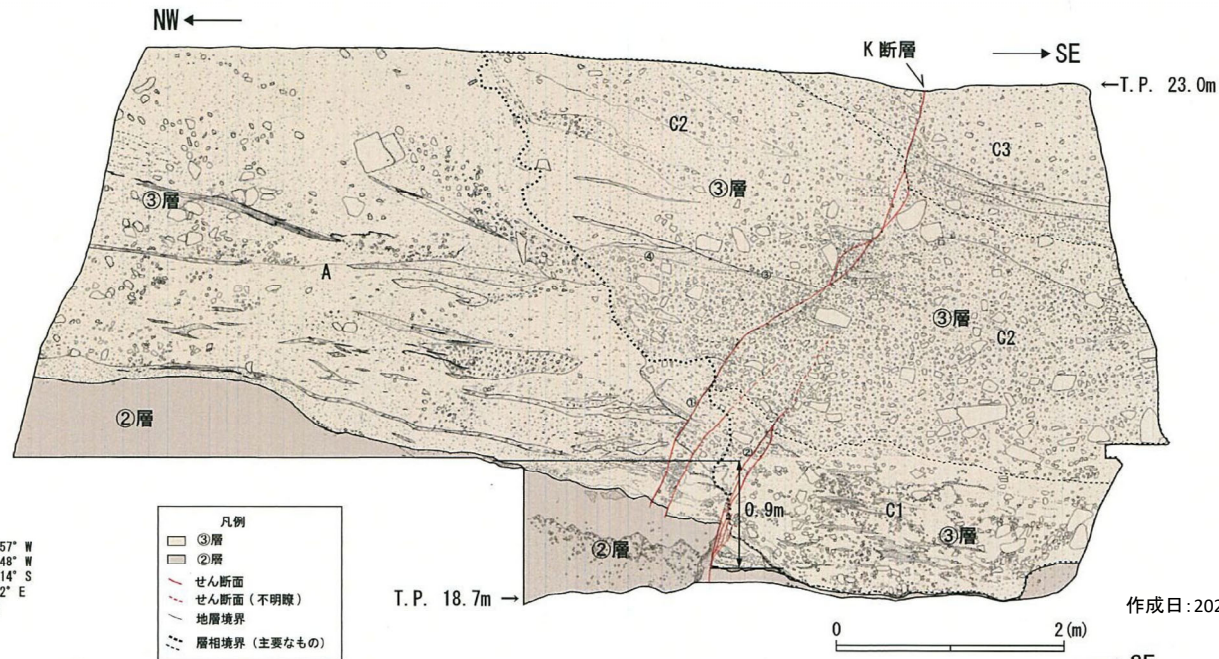
②層：礫混じりシルト質砂：褐灰色～淡黄褐色 (7.5YR6/1 ~ 10YR8/4)
基質はシルト、細～中粒砂であり、礫は径100mm以下の角～歪角礫主体である。全体的にやや軟質で北西側ほど硬質となる。
②層上面の傾斜は、K断層の上盤側で10°程度で、下盤側でほぼ水平を示す。

③層
A層：礫・シルト混じり砂：淡褐色～淡黄褐色 (5YR8/3 ~ 10YR8/3)
礫は径20mm以下の風化を受けた歪角～歪円礫主体である。基質は細～粗粒砂主体であり、レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。

C1層：砂礫：明黄褐色～にぶい橙色 (10YR6/6 ~ 7.5YR7/3)
礫率30～60%であり、レンズ状に砂層を挟む。
礫は計200mm以下の風化を受けた歪角～歪円礫主体である。礫混じり砂質シルト：淡赤褐色～灰白色 (2.5YR7/3 ~ 7.5YR/1)
基質は細～中粒砂であり、海浜はやや良い。
礫は径40mm以下の風化を受けた歪角～歪円礫主体である。

C2層：砂礫：にぶい橙色～明黄褐色 (7.5YR7/3 ~ 10YR6/6)
礫率30～60%であり、海浜はきわめて悪い。
礫は径200mm以下の風化を受けた角～歪角礫主体である。基質は中～粗粒砂であり、レンズ状に中～粗粒砂の砂層を含む。

C3層：礫質砂：にぶい橙色～淡黄褐色 (5YR6/4 ~ 7.5YR8/3)
礫は径100mm以下の風化を受けた歪角～歪円礫主体である。基質は中～粗粒砂で、海浜はやや悪い。



青枠：Aの色調に関する部分

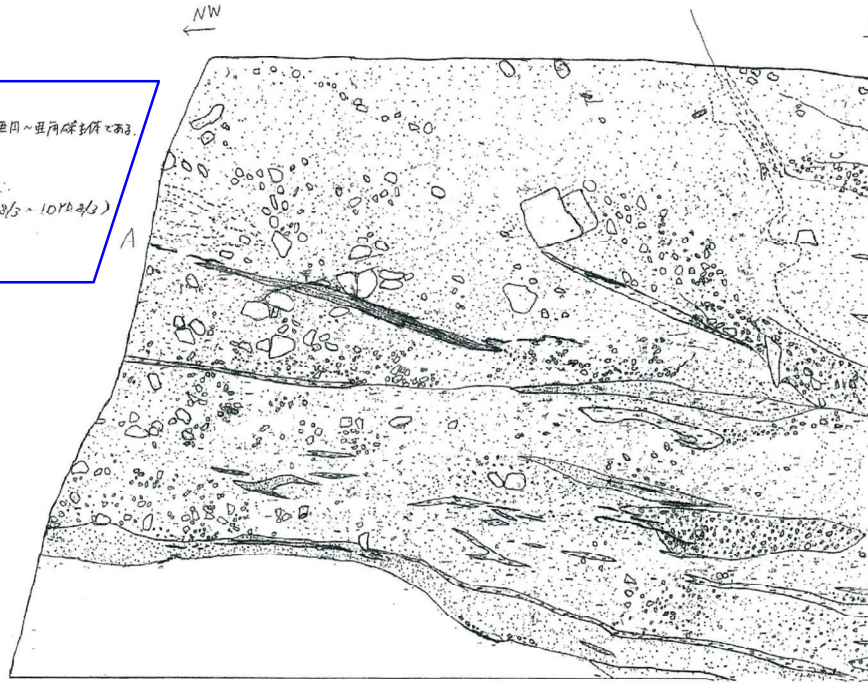
81のエビデンス (1/8)

スケッチ名：D-1トレンチ 擁壁撤去① 1/20 スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

スケッチ

A: 石炭・シルト混じり砂
 砂は径20mm以下の風化を受けた亜角礫を伴う。
 基質は細～粗粒の主相。粘土。
 シンク状のシルト・シルト質砂を含む。
 塊状性へ浅質粘土 (5YR 8/5 ~ 10YR 6/5)
 淡褐色



C2
 C2: 砂礫
 礫径30~40cm (塊状は約10cm以下)
 石炭は石炭礫層の角～亜角礫を伴う。
 径30~100mmの風化片礫。
 よく粘土。
 基質は中～粗粒の砂、粘土。
 シンク状の中～粗粒砂の砂層を含む。
 褐色～明褐色
 (7.5YR 7/6 ~ 10YR 6/6)
 下位のA層を削り込んでおき、
 土質はC2。不適切な
 厚さ約2.5m

② 層: 礫混じりシルト質砂
 基質はシルト。細～中粒砂
 よく粘土。やや軟質。北西側ほど硬質化する。
 ② 層上層面の傾斜角、北西側では約10°。水平だが
 南東に向かうにつれて約10°程度低くなる。
 褐色 (7.5YR 6/1)

作成日・確認日：2022年3月28日
 確認者：[Redacted]

D-1トレンチ 擁壁撤去① 1/20

青枠：Aの色調に関する部分

81のエビデンス (2/8)

2022
作成日 3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022-3-28

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)											記事・スケッチを削除・変更・追記した理由				
			地質的特徴	地層境界	地質境界の整合・不整合	埋積構造	土質化など 堆積環境	土質化など 堆積環境	土質化など 堆積環境	土質化など 堆積環境	土質化など 堆積環境	土質化など 堆積環境	土質化など 堆積環境		土質化など 堆積環境			
Q2	砂礫 礫率30~40% 礫法はきわめて悪い。 礫は下部泥質の黄~赤角礫を主体、径30~100mmの風化礫、よく練る。 礫質は単一粗粒砂を含む。 染色→同質褐色(5YR5/2~10YR6/3) 下記の色調を併記して示していることから不整合関係であると考えられる。	-	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
A	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた歪円~歪角礫主体である。 礫質は単一粗粒砂主体。 練る。 レンズ状のシルト~シルト質砂を含む。 淡褐色~淡黄褐色(5YR5/2~10YR6/3)	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた歪円~歪角礫主体である。 礫質は単一粗粒砂主体。 練る。 レンズ状のシルト~シルト質砂を含む。 淡褐色~淡黄褐色(5YR5/2~10YR6/3)	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	色調(淡褐色)と色調を不整合号(5YR6/2)が整合していない。法面本実を確認し、色調を不整合号(5YR6/2)が正しく、色調の書き間違いであると判断した。
Q3	細粒にシルト質砂 礫質はシルト、陸~中粒砂 よく練り、やや軟質。北西側ほど硬質になる。 公衆土塊の構成は、北西側ではほぼ水砕だが、南東側に向かって約10% 程度練く。 緑灰色(7.5YR6/1)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯											記事・スケッチを削除・変更・追記した理由				
			破砕部の性状	破砕部の種類	破砕部の構成	破砕部の構成	破砕部の構成	破砕部の構成	破砕部の構成	破砕部の構成	破砕部の構成	破砕部の構成	破砕部の構成		破砕部の構成			
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

スケッチ名:D-1トレンチ 擁壁撤去② 1/20 スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
・観察面の対象箇所名
・観察面の枠
・縮尺
・方位、スケール(または、グリッドの間隔)



スケッチ

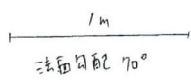
- 方位、傾斜角
- ① f: N33E57W ← NW
 - ② f: N26E48W
 - ③ b: N73E14S
 - ④ b: N13E12E

A: 石英・シルト混じり砂.
 石英は径20mm以下の風化を
 受けた粗角~亜角状玉状の砂.
 粘土質の粗~細粒砂を併せ.
 シルトはシルト~シルト質の風化.
 淡褐色~淡黄褐色
 (5YR6/3 ~ 10YR6/3)

C3: 礫質砂
 礫は径100mm以下の風化を受けた、亜角~亜円砂玉状の砂.
 基質は中~粗粒砂.
 濁状はやや悪い.
 にぶい棕色~黄褐色(5YR6/3 ~ 7.5YR6/3)

C2: 砂礫
 礫径30~60mmあり.
 濁状はきわめて悪い
 礫は200mm以下の風化を受けた
 角~亜角状玉状の砂.
 基質は中~粗粒砂.
 シルトに中~粗粒砂の砂屑を
 含む.
 一部弱い葉理が認められる.
 下部のA層と、同じ大きさで
 堆積していることが、不整合
 関係であると考えられる.
 にぶい棕色~黄褐色
 (7.5YR6/3 ~ 10YR6/3)

C1: 石英混じり砂質シルト
 基質は細~中粒砂であり、一部シルト混じり.
 濁状はやや悪い.
 多量堆積あり.
 石英は花崗岩、花崗斑岩で径40mm以下の風化を
 受けた亜角~亜円砂玉状の砂. 淡褐色(5YR6/3)



- S-1: せん断面
最も詳細な部分
- S-2: せん断面
一部不明瞭
- S-3: せん断面
一部不明瞭

作成日・確認日: 2022年3月28日 確認者: [Redacted]

D-1 H24 擁壁撤去② 1/20

スケッチ名：D-1トレンチ 擁壁撤去③ 1/20 スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか

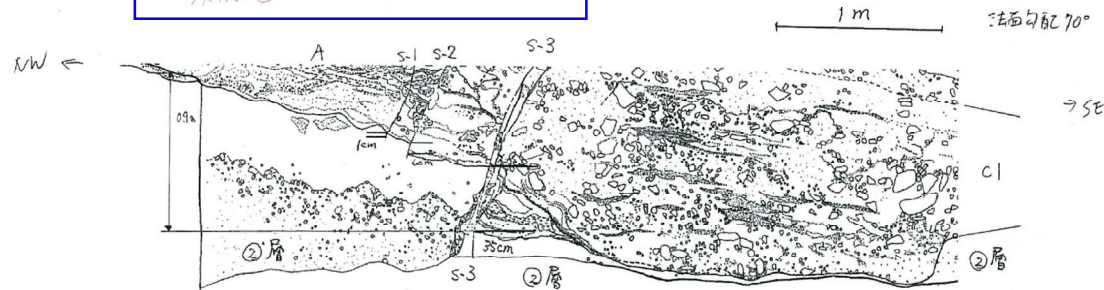
- ・観察面の対象箇所名
- ・観察面の枠
- ・縮尺
- ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

スケッチ

A: 礫・シルト混じり砂
 礫は径20mm以下の風化色白〜黄白色の垂直礫主体である。
 基底は細〜粗粒砂主体。ゆるい。
 シス状のシルト・シルト質砂も存在。
 一部は埋積構造が認められる。
 淡褐色〜浅黄褐色(5YR8/3〜10YR8/3)
 淡褐色

C1: 砂礫〜礫混じり砂質シルト
 礫率30〜60%。シルト状の砂層には所々の黄白色の塊が認められる。
 礫は径40mm以下の風化色白〜黄白色の垂直礫主体である。
 砂礫の基底は中〜粗粒砂、やや軟質。
 下部は砂質シルト主体、上部は礫混じり砂質シルト主体である。
 明黄褐色〜灰白色(10YR6/6〜7.5YR7/3)
 淡赤褐色〜灰白色(2.5YR7/3〜7.5YR6/1)



②層: 礫混じりシルト質砂
 基底は細〜中粒砂。
 やや軟質、やや軟質。
 礫は径100mm以下の白〜黄白色の垂直礫主体である。
 褐灰色〜浅黄褐色(7.5YR6/1〜10YR8/4)
 ③層上段面の傾斜はセクションの上段傾斜の
 10°程度、下段傾斜はほぼ水平を示す。

S-1: セクション
 ②層上面が逆断層に20°傾斜した位置。
 S-2: セクション
 ②層上面が逆断層に20°傾斜した位置。
 S-3: セクション
 ②層上面が逆断層に20°傾斜した位置。

擁壁撤去 ③ 1/20

作成日・確認日：2022年3月28日
 確認者：[Redacted]

青枠：Aの色調に関する部分

作成日 2022/3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022. 3. 28

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)												スケッチ原図(基盤岩)	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由	
			地名	地質の特徴				地層境界	地層構造	土壌化など	走向・傾斜	地名	風化・変質	色調			
				・柱状構造、層の厚さ、傾斜、礫、砂、礫の混在	・礫の風化	・含有物(有機質、貝殻など)	・その他 断面と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載										
C1	砂礫～礫混じり砂質シルト 厚さ20～60cm。 レンズ状に砂層を含む。レンズ状の砂層には所々ミナリの発達が見られる。 厚さは40cm以下の風化を受けた基岩・基岩主体である。 砂礫の基質は中～粗粒砂。 やや傾斜。 下部は砂質主体。上部は礫混じり砂質シルト主体である。 淡黄褐色～土灰色(10YR6/1～10YR7/3) 淡赤褐色～灰白色(2.5YR7/3～7.5YR/1)	-	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
A	礫・シルト混じり砂 厚さは20cm以下の風化を受けた基岩～基角礫主体である。 基質は中～粗粒砂主体。 A 層。 レンズ状にシルト～シルト質砂を含む。 一部で地層構造が発達する。 淡黄褐色(5YR6/3～10YR6/3)	礫・シルト混じり砂 厚さは20cm以下の風化を受けた基岩～基角礫主体である。 基質は中～粗粒砂主体。 A 層。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 一部で地層構造が発達する。 淡赤色～淡黄褐色(5YR6/3～10YR6/3)	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	色調(淡褐色)と色調を示す記号(5YR6/3)が整合していない。法面写真も確認。色調を示す記号(5YR6/3)が広く、色調の層が連続してであると判断した。
B	礫混じりシルト質砂 基質は中～粗粒砂 厚さは100cm以下の角～基角礫主体である。 相灰色～淡黄褐色(7.5YR6/1～10YR6/4) 断面上部の傾斜はせん断面の上部側で10°程度。下部側ではほぼ水平を示す。	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由	
			破砕帯区分 (No.10)	破砕部の性状 ・細粒部の種別 ・破砕部内物質 ・塊状 ・破砕部の連続性・連続性 ・両端部が認められる境界を主体とし、基質も細粒化した破片からなる組織の有無	内部構造 ・塊状構造、塊状面構造、葉状構造、割目状粘土など	断層区分 ・断層カワシ、断層帯、断層カワシ、サイズ(区別できる場合)	破砕帯 Iに区分し記載	断層帯帯域 (区別した場合)	条線	方位・方位角 ・露頭面に沿って計測した方位・方位角	色調			
S1	せん断面 断面上部が逆断層センスで約1cmの交代。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
S2	せん断面 断面上部が逆断層センスで約6cmの交代。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
S3	せん断面 断面上部が逆断層センスで約15cmの交代。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-

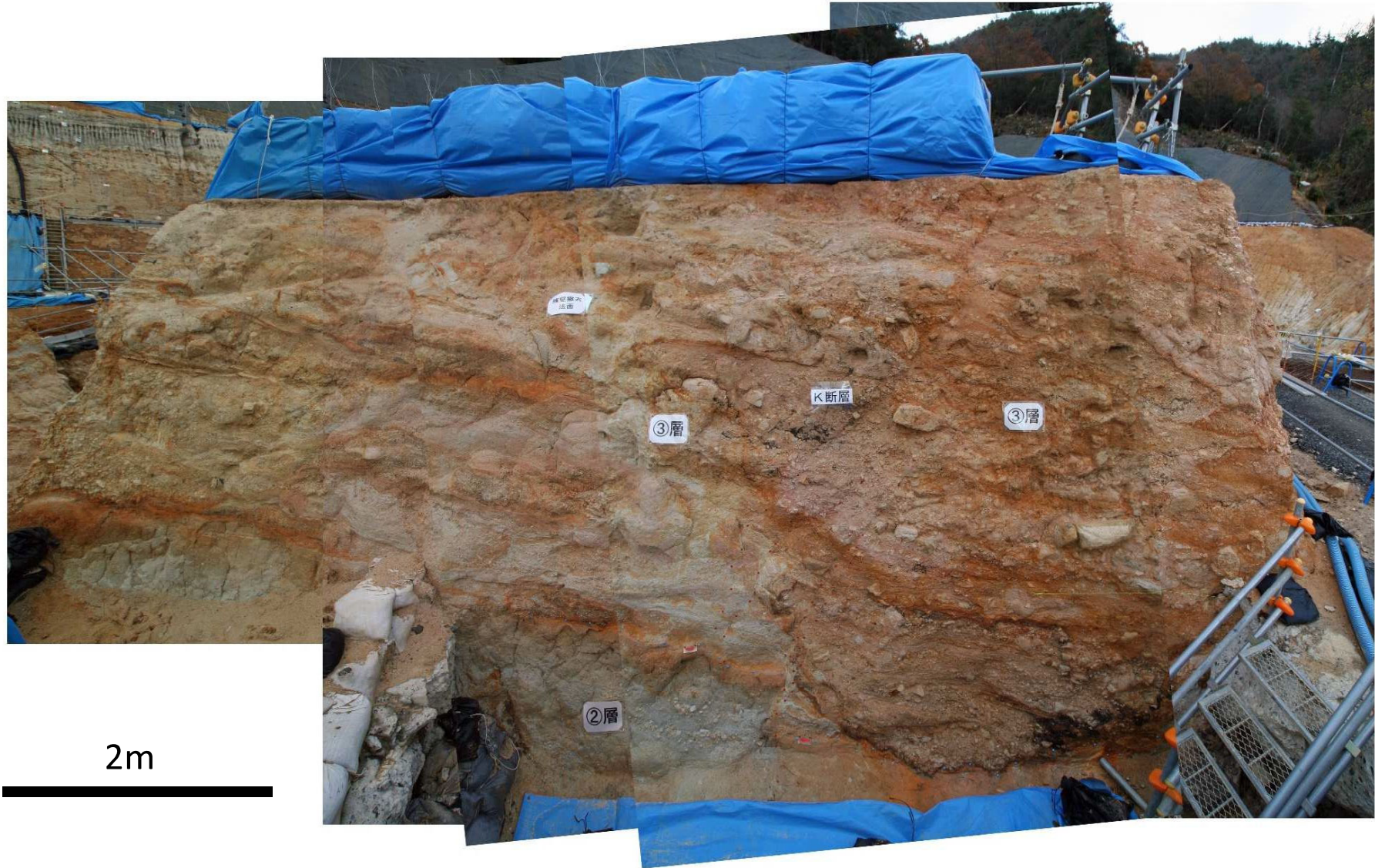
スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 擁壁撤去法面_③A層の記載)

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容	
スケッチ原図①	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 浅橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 淡橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)		
スケッチ原図②	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 浅橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 淡橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂: 淡橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3) 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体であり、レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。	・色調(浅橙色)と色調を示す記号(5YR8/3)が整合していない。観察面写真を確認し、色調を示す記号(5YR8/3)が正しく、色調の書き間違いであると判断した。
スケッチ原図③	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 一部で堆積構造が発達する。 浅橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 一部で堆積構造が発達する。 淡橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)		

D-1 トレンチ擁壁撤去法面写真

81のエビデンス (8/8)

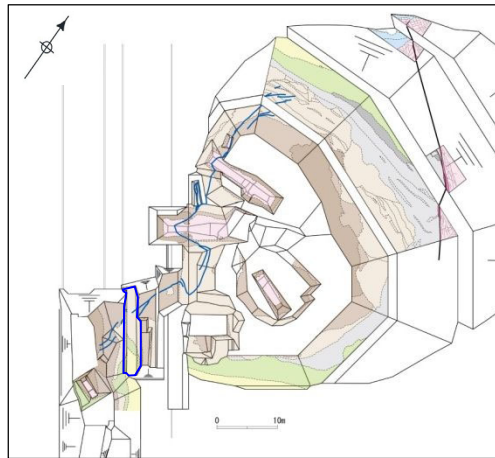
2013年12月撮影



K断層の性状(原電道路ピット/ふげん道路ピット)

修正箇所：橙色枠

- 原電道路ピット東向き法面部では、K断層は②層及びC層(③層)までの地層に変位を与えているが、その上位の地層であるD3層(③層)は変位・変形を受けておらず、下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- ふげん道路ピット東法面(上段)では、C層までの地層に変位・変形を与えているが、その直上に分布するD3層の基底には、原電道路ピット東向き法面部と同様、K断層による変位・変形は及んでおらず、D3層は下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- これらのことから、原電道路ピット及びふげん道路ピットにおいて、K断層はMIS6以前に堆積したD3層に変位・変形を与えていない。

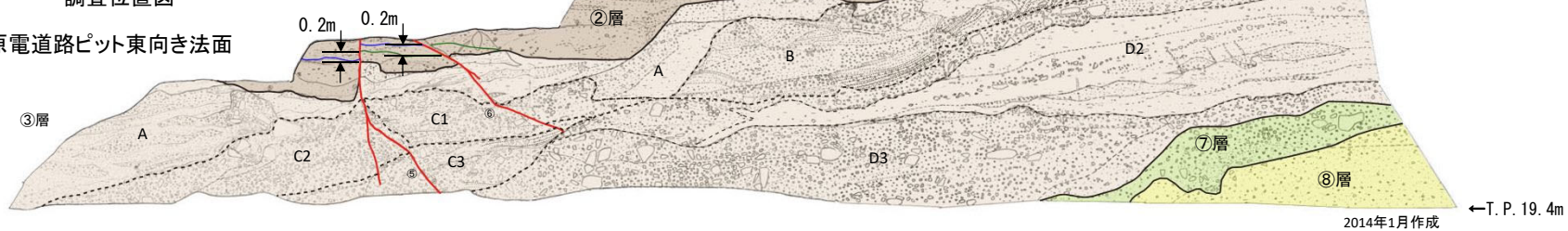


調査位置図

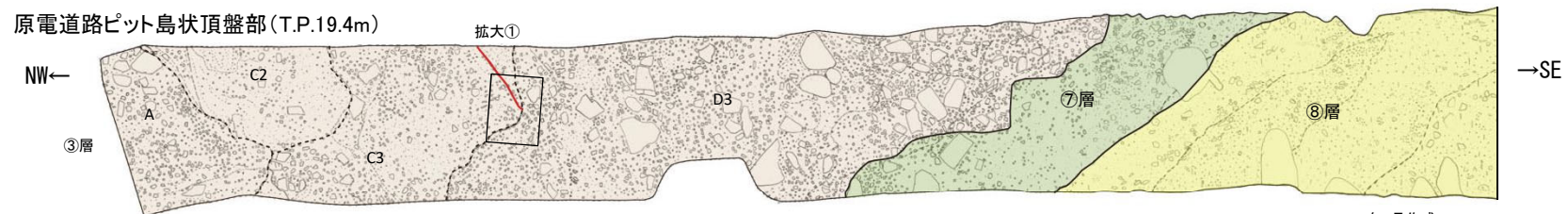
- ⑧層：細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色(5Y6/6)。礫率5~10%で、礫は径2~4cm程度の垂角礫を含む。基質は、シルト質細砂からなり、細礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状~層状に挟む。
- ⑦層：礫混じり砂質シルト~砂礫からなる。明赤褐色~橙色(5YR5/6~7.5YR7/6)。礫率7~40%程度で径3~40cm程度の垂角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細~中粒砂からなる。下部ほど礫の含有率が多い。
- ③層(C, D3)：砂礫及びシルト混じり細粒砂を主体とする。橙色~明褐色(7.5YR6/6~7.5YR5/6)。礫率15~40%で径1~10cm程度(最大径40cm)の角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
- (A, B)：砂礫を主体とする。浅黄色(2.5Y7/3)。礫率20%程度で径1~7cm程度(最大径25cm)の垂角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
- ②層：細礫・砂混じりシルトを主体とする。灰白色(2.5Y7/1)。礫率3~5%で径5cm以下の角~垂角礫を含む。基質は、シルト混じり細粒砂からなり、砂層をレンズ状に挟む。

- ⑤ f: N9° E74° W
- ⑥ f: N5° E64° W
- ⑦ f: N25° E70° E
- f: せん断面

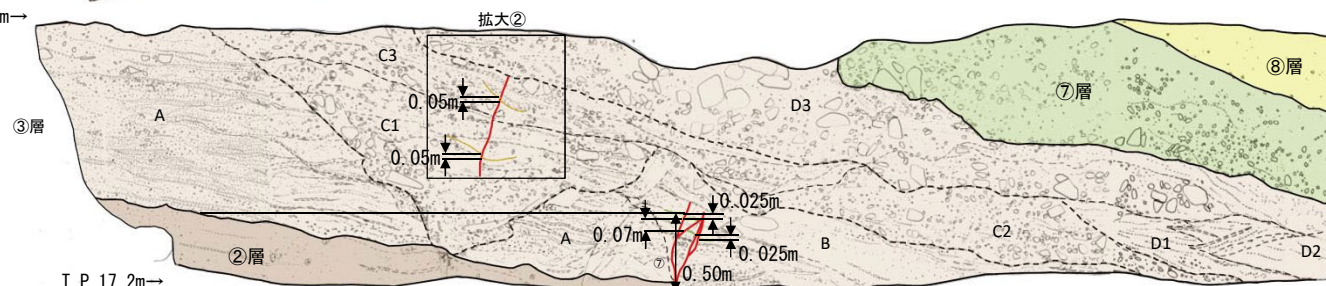
原電道路ピット東向き法面



原電道路ピット島状頂盤部(T.P.19.4m)



T.P. 19.4m→

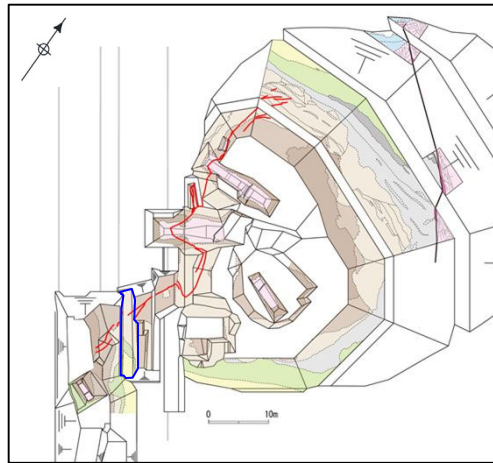


ふげん道路ピット東法面(上段)

2015年7月作成

- 凡例
- ⑧層
 - ⑦層
 - ③層
 - ②層
 - せん断面
 - 地層境界
 - 層相境界(主要なもの)



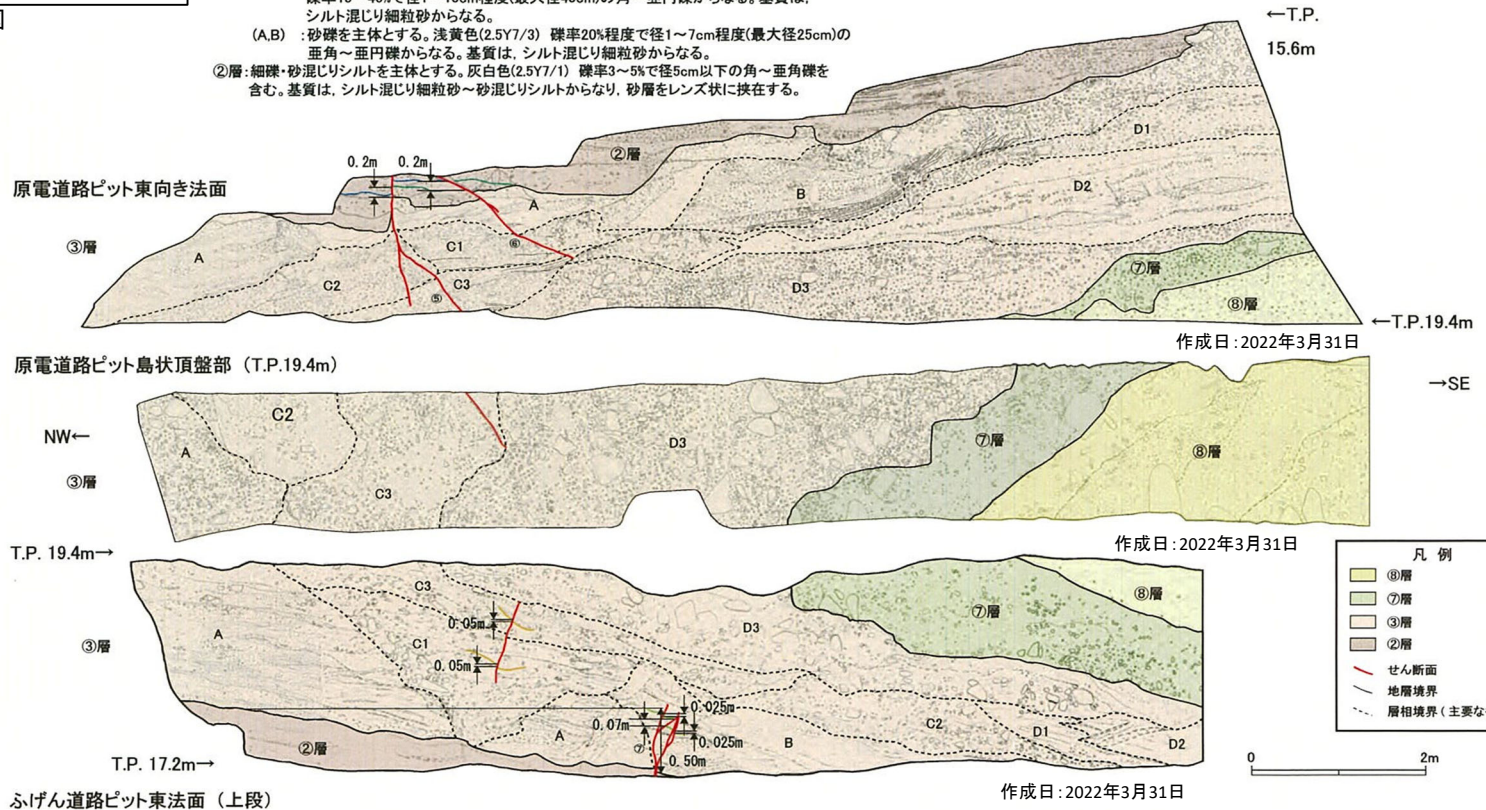


調査位置図

- 原電道路ピット東向き法面部では、K断層は②層及びC層(③層)までの地層に変位を与えているが、その上位の地層であるD3層(③層)は変位・変形を受けておらず、下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- ふげん道路ピット東法面(上段)では、C層までの地層に変位・変形を与えているが、その直上に分布するD3層の基底には、原電道路ピット東向き法面部と同様、K断層による変位・変形は及んでおらず、D3層は下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- これらのことから、原電道路ピット及びふげん道路ピットにおいて、K断層はMIS6以前に堆積したD3層に変位・変形を与えていない。

- ⑧層: 細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色(5YR6/6)。礫率5~10%で、礫は径2~4cm程度の垂角礫を含む。基質は、シルト質細砂からなり、細礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状に挟在する。
- ⑦層: 礫混じり砂質シルト~砂礫からなる。明赤褐色(5YR5/6)~橙色(7.5YR7/6)。礫率7~40%程度で径3~40cm程度の垂角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細~中粒砂からなる。下部ほど礫の含有量が多い。
- ③層 (C,D): 砂礫及びシルト混じり細砂を主体とする。橙色~明褐色(7.5YR6/6~7.5YR5/6)。礫率15~40%で径1~10cm程度(最大径40cm)の角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
(A,B): 砂礫を主体とする。浅黄色(2.5Y7/3) 礫率20%程度で径1~7cm程度(最大径25cm)の垂角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
- ②層: 細礫・砂混じりシルトを主体とする。灰白色(2.5Y7/1) 礫率3~5%で径5cm以下の角~垂角礫を含む。基質は、シルト混じり細粒砂~砂混じりシルトからなり、砂層をレンズ状に挟在する。

⑤:f:N9° E74° W
⑥:f:N5° E64° W
⑦:f:N25° E70° E
f: せん断面



スケッチ名: D-1トレンチ 原電道路ピット東向き法面 1/20 ③ スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

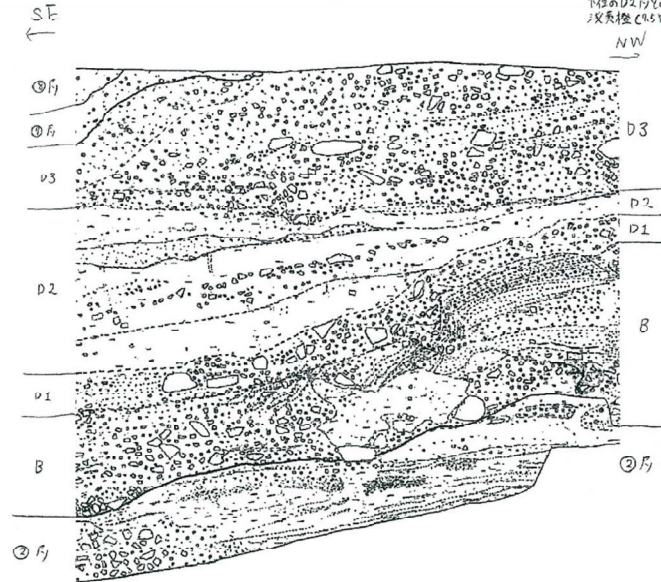
○

②F₁: 細礫・シルト混じり砂
 基質はシルト質細砂からなる
 礫 (5.5Y 4/6) 5.5YR 4/6

①F₁: 礫混じりの黄シルト
 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫
 径20mm程度の礫を含有
 基質はシルト混じり細～中粒砂からなる
 下部のD3層との境界は、①F₁が角～中粒砂の境界と一致する
 明色礫 (5.5Y 4/6), 明色 (9.5YR 4/6)

D3: 礫礫
 礫率 15～40%, 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫
 径10～30mmの礫主体、最大250mmの礫を含有
 基質はシルト混じり砂からなる
 一部に酸化汚染がみられる
 一部に堆積構造がみられる
 下部のD2層との境界は、D3層が角～中粒砂の境界と一致する
 明色礫 (9.5YR 4/6), 明色 (9.5YR 4/6), 明色 (10.5YR 4/6)

スケッチ



D2: 礫混じり砂質シルト
 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫
 径10～100mmの礫を含有
 基質はシルト混じり細砂からなる
 シルト質砂をシルト状に結ぶ
 一部に酸化汚染がみられる
 一部に堆積構造がみられる
 明色礫 (5.5Y 4/6), 明色 (9.5YR 4/6)

D1: 礫礫
 礫率 15～30%, 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫
 径10～30mmの礫主体、最大150mmの礫を含有
 基質はシルト混じり砂からなる
 一部に酸化汚染がみられる
 一部に堆積構造がみられる
 明色 (9.5YR 4/6), 明色 (9.5YR 4/6)

B: 砂礫
 礫率 20%, 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫
 径1～70mmの礫主体
 基質はシルト混じり細砂からなる
 砂質シルト、細～中粒砂と砂礫が互層状を呈する
 一部に酸化汚染がみられる
 一部に堆積構造がみられる
 下部の②F₁との境界は、②F₁が角～中粒砂の境界と一致する
 明色 (2.5Y 4/6)

②F₁: 細礫・砂混じりシルト
 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫
 径5～10mmの礫を含有
 基質はシルト混じり細砂～砂質シルトからなる
 砂礫、砂質シルトをシルト状に結ぶ
 堆積構造がみられる
 一部に酸化汚染がみられる
 灰白 (2.5Y 4/6)

法面勾角27.5° 作成日・確認日: 2022年3月28日
 確認者: [Redacted]

0 1m
 原電道路ピット東向き法面 ② 1/20

青枠：⑧層の色調に関する部分

2022
作成日 3/28

作成者 [redacted]

確認者 [redacted]

確認日 2022.3.28

No.	スケッチ名	0-1トレンチ 扇電道跡ピット南向き法面 1/20 ⑧記事	地層の性状に関する記事	適正化する記事内容	スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(基盤部)		記事・スケッチを削除・変更・追記した理由				
					地質名	・粒度構成、種の種類、形状、構造、硬さ、地まり具合	・種の風化度	・含有物(有機質、貝殻など)	・その他、断面と異なる状態や特徴的な点があれば、それらについて記載。	地層境界	・地層境界の整合、不整合関係が認定できる場合は、その種類も併せて記載。	埋藏構造	・管埋、葉理、風化	土壌化など、地層環境・時間関係	色調を示すもの	走向・傾斜		・地層構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所を測定するものとし、局所的に面高や方向が変化した箇所では測定しない。	地質名	風化・変質	割れ目、せん断割れ目
②層	扇電道跡ピット南向き法面	0-1トレンチ	⑧層	細粒・砂混じりシルト 花崗岩、花崗斑岩の角～扇円礫、径50mm以下の礫を含む。 基質はシルト混じり細粒砂～砂混じりシルトからなる。 砂層・砂層をレンズ状に挟む。 一部に酸化汚染がみられる。 灰白(2.5Y7.1)	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
④層	扇電道跡ピット南向き法面	0-1トレンチ	④層	砂礫 礫率20% 花崗岩、花崗斑岩の角～扇円礫、径10～70mmの礫主体。 基質はシルト混じり細粒砂からなる。 シルトはシルト・細～中粒砂が砂層を穿する。 一部に埋藏構造が発達する。 一部に酸化汚染がみられる。 下位の②層との境界は、空層を削り込んで埋積している。 浅黄(2.5Y7.3)	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
⑤層	扇電道跡ピット南向き法面	0-1トレンチ	⑤層	砂礫 礫率10～30% 花崗岩、花崗斑岩の角～扇円礫、径10～30mmの礫主体。最大150mmの礫を含む。 D 基質はシルト混じり砂からなる。 一部に酸化汚染がみられる。 一部に埋藏構造が発達する。 明黄(7.5YR6/6)	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
⑥層	扇電道跡ピット南向き法面	0-1トレンチ	⑥層	細粒～シルト質シルト 花崗岩、花崗斑岩の角～扇円礫、径10～100mmの礫を含む。 D 基質はシルト～中粒砂からなる。 シルト質砂をレンズ状に挟む。 一部に埋藏構造が発達する。 一部に酸化汚染がみられる。 白(5.0YR6/4)	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
⑦層	扇電道跡ピット南向き法面	0-1トレンチ	⑦層	砂礫 礫率15～40% 花崗岩、花崗斑岩の角～扇円礫、径10～30mmの礫主体。最大250mmの礫を含む。 D 基質はシルト混じり砂からなる。 一部に埋藏構造が発達する。 下位の②層との境界は、D3層が削り込んで埋積していることから不整合関係であると考えられる。 浅黄(7.5YR6/6)	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
⑧層	扇電道跡ピット南向き法面	0-1トレンチ	⑧層	細粒～シルト質シルト 花崗岩、花崗斑岩の角～扇円礫、径30mm程度の礫を含む。 D 基質はシルト混じり細～中粒砂からなる。 下位の②層との境界は、②層が削り込んで不整合関係と推定される。 明赤黄(5YR6/6)	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
⑧層	扇電道跡ピット南向き法面	0-1トレンチ	⑧層	細粒～シルト混じり砂 基質はシルト質細砂からなる。 黄(5Y6/6)	細粒～シルト混じり砂 基質はシルト質細砂からなる。 黄(5YR6/6)	○	○	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	色調(黄)と、色調を示す記事(5Y6/6)が整合していない。当該記事と色調(黄)が一致し、色調を示す記事の書き間違いであると判断した。	
No.	スケッチ名	0-1トレンチ	破砕帯に関する記事	適正化する記事内容	破砕帯										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由						
					破砕帯区分 (Hc-Hs/Hg)	破砕部の性状 ・破砕部の種類 ・破砕部内物質 ・塊状 ・破砕部の連続性・連続性 ・断面構造が認められる破片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる結核の有無	内部構造 ・塊状構造、塊合構造、葉理構造、網目状構造など	断層帯区分 ・断層がウジシ断層 角帯・カクレサイ(両側できる場合) に区別し記載	破砕構造	最新活動面 (認定した場合)	各種	性状・変形 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所を測定するものとし、主としてせん断面について複数点で測定する。							

スケッチ名D-1トレンチ 原電道路ピット東向き法面 1/20 ④ スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか

- 観察面の対象箇所名
- 観察面の枠
- 縮尺
- 方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

スケッチ

①F: 花崗岩(り)砂質シルトへ砂岩
 礫率10~40%。花崗岩、花崗斑岩の互角~亜円礫
 径30mm以下の礫が主體
 基質はシルト泥(り)細~中粒砂からなる。
 一部に堆積構造が見られる。
 下部のD3Fとの境界は②Fが判り込みに連続していることから
 不整合関係はとらえられない。
 明礫(5YR 5/6)、橙(7.5YR 7/6)

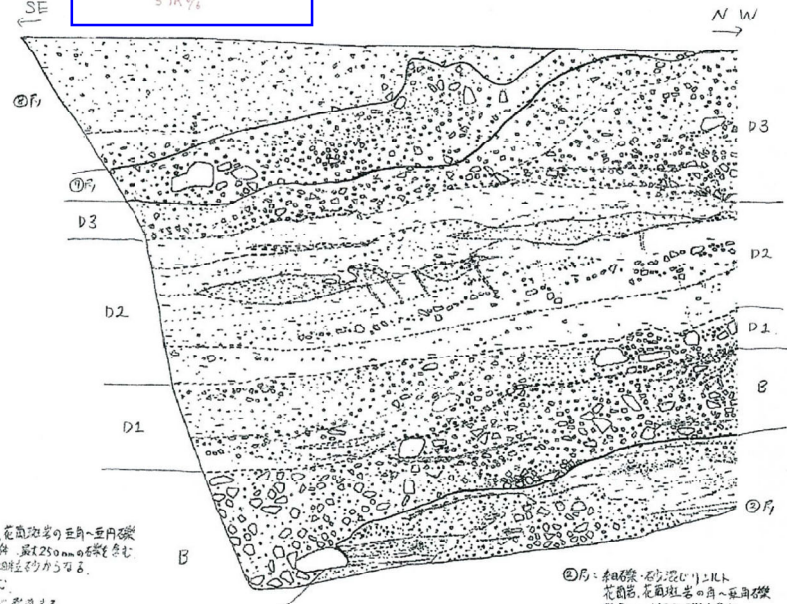
D3: 砂岩
 花崗岩、花崗斑岩の角~亜角礫
 径10~30mmの礫を主體。最大250mmの礫を含む。
 基質はシルト泥(り)砂からなる。
 一部に酸化産物が見られる。
 明礫(7.5YR 5/6)、橙(8.5YR 6/6)、明赤(10YR 6/6)

D2: 花崗岩(り)砂質シルト
 花崗岩、花崗斑岩の角~亜円礫
 径10~100mmの礫を含む。
 基質はシルト~中粒砂からなる。
 シルト質砂を主體に含む。
 一部に堆積構造が見られる。
 一部に酸化産物が見られる。
 明礫(5YR 5/6)、明赤(8.5YR 5/6)

D1: 砂岩
 礫率15~30%。花崗岩、花崗斑岩の角~亜円礫
 径10~30mmの礫を主體。最大150mmの礫を含む。
 基質はシルト泥(り)砂からなる。
 一部に酸化産物が見られる。
 砂質シルトを主體に含む。
 一部に堆積構造が見られる。
 下部のB層とは、D1Fが判り込みに連続していることから
 不整合関係はとらえられない。
 明礫(7.5YR 6/6)、明赤(7.5YR 5/6)

B: 砂岩
 礫率2%。花崗岩、花崗斑岩の角~亜円礫
 径10~100mmの礫を主體。最大250mmの礫を含む。
 基質はシルト泥(り)砂からなる。
 細~中粒砂を主體に含む。
 一部に堆積構造が見られる。
 一部に酸化産物が見られる。
 明赤(2.5Y 7/6)

②F: 粗礫・シルト泥(り)砂
 花崗岩、花崗斑岩の角~角礫
 径20mm以下の礫を含む。
 基質はシルト質細砂からなる。
 橙(5Y 7/6)



原電道路ピット東向き法面 ④ 1/20
 走向方位 75~80°

作成日・確認日：2022年3月28日
 確認者：[Redacted]

②F: 粗礫・砂質シルト
 花崗岩、花崗斑岩の角~亜角礫
 径50mm以下の礫を含む。
 基質はシルト泥(り)細粒砂~砂質シルトからなる。
 砂質シルトを主體に含む。
 一部に堆積構造が見られる。
 一部に酸化産物が見られる。
 灰白(2.5Y 9/1)

青枠：⑧層の色調に関する部分

2022
作成日 3/28

作成者

確認者

確認日 2022.3.28

No.	地層の性状に関する記事	適正化する記事内容	スケッチ原因(第四系)											スケッチ原因(基盤岩)			
			地質的特徴	地層境界	地質構造	土質(シルト、砂、礫)	走向・傾斜	地質名	風化・変質	割れ目・せり目	色調	走向・傾斜	色調	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由			
															・粒度構成、種別、堆積環境、埋まり具合	・種の風化	・含有物(泥質、頁岩など)
2	砂礫・砂質シルト 花崗岩、花崗斑岩の角～歪円礫、径50mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂～砂質シルトからなる。 一部に酸化汚染が認められる。 灰白(2SY71)	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	砂礫 礫率20% 花崗岩、花崗斑岩の角～歪円礫、径10～70mmの礫主体、最大250mmの礫を含む。 基質はシルト質中粒砂からなる。 一部に中粒砂を伴う。 一部に酸化汚染が認められる。 灰黄(2SY73)	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	砂礫 礫率14～20% 花崗岩、花崗斑岩の角～歪円礫、径10～30mmの礫主体、最大150mmの礫を含む。 基質はシルト質中粒砂からなる。 一部に酸化汚染が認められる。 砂礫をレンズ状に含む。一部に塊状構造が見られる。 下位の層とは、D1層が削り込んで埋積していることから不整合関係であると考えられる。 塊(2SY75/6) 明礫(2SY75/6)	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	砂質シルト 花崗岩、花崗斑岩の角～歪円礫、径10～100mmの礫を含む。 基質はシルト～中粒砂からなる。 シルト質砂をレンズ状に含む。 一部に塊状構造が認められる。 一部に酸化汚染が認められる。 塊(2SY76/4) 明礫(2SY76/6)	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	砂礫 花崗岩、花崗斑岩の角～歪円礫、径10～30mmの礫主体、最大250mmの礫を含む。 基質はシルト質中粒砂からなる。 一部に酸化汚染が認められる。 透黄礫(2SY78/4) 塊(2SY78/6) 明礫(2SY78/6)	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	砂質シルト～砂礫 花崗岩、花崗斑岩の角～歪円礫、径30mm以下の礫が主体。 基質はシルト質中粒砂からなる。 一部に塊状構造が認められる。 下位のD3層との境界は、D7層が削り込んで埋積していることから不整合関係であると考えられる。 明赤礫(2SY79/6) 塊(2SY79/6)	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
注 8	砂礫・シルト質中粒砂 花崗岩、花崗斑岩の角～歪円礫、径20mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 塊(2SY76/6)	砂礫・シルト質中粒砂 花崗岩、花崗斑岩の角～歪円礫、径20mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 塊(2SY76/6)	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	色調(塊)と、色調を示す記号(2SY76/6)が異なる点に、法面写真を参照し、色調(塊)が正確に色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
No.	破砕帯に関する記事	適正化する記事内容	破砕帯														
			破砕部の性状 (He/Fa/Fa)	破砕部の種類	破砕部内物質	内部構造	断層区分	破砕帯	最新活動面 (認定した場合)	高橋	変位・変形量 ・変形構造 ・変形構造	走向・傾斜	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由				
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

スケッチ名: D-1トレンチ ふげん道路ピット 東法面 1/20 ③ スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
・観察面の対象箇所名
・観察面の枠
・縮尺
・方位、スケール(または、グリッドの間隔)



スケッチ

⑧層

- ・紫田礫・シルト混り砂
- ・木登(5Y6/6) 5YR6/6
- ・花崗岩、花崗斑岩の亜角礫、径10mm以下の石礫を含む。
- ・基質はシルト質系田砂となる。

⑦層

- ・石礫混り砂質シルト～砂礫
- ・明赤系、木登(5YR 5/6、7.5YR 6/6)
- ・花崗岩、花崗斑岩の亜角～亜円石礫、径20mm以下の石礫主体。
- ・基質はシルト混り系田中粒砂となる。
- ・下位のD3層との境界は、D3層中の堆積構造と連続していることから不整合関係であると考えられる。
- ・礫率17～15%
- ・下部ほど石礫の含有率が多い。

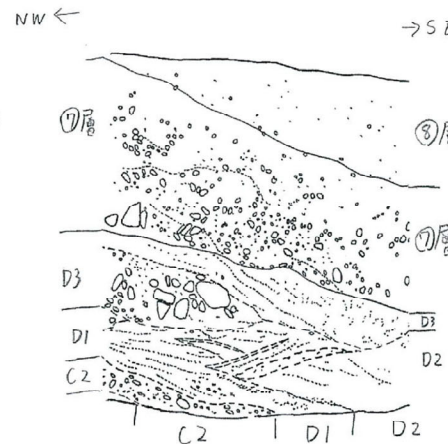
D3

- ・砂礫～シルト混り系田砂
- ・浅黄赤、木登、明赤(7.5YR 8/4、7.5YR 6/6、10YR 6/6)
- ・花崗岩、花崗斑岩の角～亜角礫、径10～300mmの石礫主体。
- ・礫率15～30%
- ・基質はシルト混り砂となる。
- ・一部に酸化汚染が見られる。
- ・堆積構造が見られる。

・下位のD1層、D2層との境界は、D3層が削り込んで連続していることから、不整合関係であると認められる。

D2

- ・シルト質砂
- ・浅黄赤、明赤(5YR 6/4、7.5YR 5/6)
- ・中粒砂となる。
- ・堆積構造が見られる。



D1

- ・砂礫
- ・木登、明赤(7.5YR 6/6、7.5YR 5/6)
- ・礫率15～30%
- ・花崗岩、花崗斑岩の角～亜円石礫、径10～300mmの石礫主体
- ・基質は砂となる。
- ・堆積構造が見られる。

C2

- ・砂礫
- ・木登、明赤(7.5YR 6/6、7.5YR 5/6)
- ・礫率15～20%
- ・花崗岩、花崗斑岩の角～亜円石礫、径10～100mmの石礫主体。
- ・基質はシルト混り細粒砂となる。
- ・一部に酸化汚染が見られる。
- ・弱く堆積構造が見られる。

法面口角280°



作成日・確認日：2022年3月28日
確認者：[Redacted]

D-1トレンチ ふげん道路ピット 東法面 ③ 1/20

青枠：⑧層の色調に関する部分

作成日 3/28

作成者

確認者

確認日 2022.3.28

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原因(第四系)											スケッチ原因(基盤後)				記事・スケッチを削除・変更・追記した理由	
			地質名	地質の特徴	地層構造	地層構造の整合・不整合関係の認定できる者	地層構造	地層構造	土壌化など、地層構造・時間関係を示すもの	走向・傾斜	走向・傾斜	走向・傾斜	走向・傾斜	走向・傾斜	走向・傾斜	走向・傾斜	走向・傾斜		
	砂礫 礫高15~20% 花崗岩、花崗斑岩の角~歪円礫、径10~100mmの礫主体。 0 基質はシルト混じり細粒砂からなる。 1 一部に酸化汚染がみられる。 2 堆積構造が認められる。 3 明礫(7.5YR6/6)	-																	
	砂礫 礫高15~20% 花崗岩、花崗斑岩の角~歪円礫、径10~100mmの礫主体。 0 基質は砂からなる。 1 堆積構造が認められる。 2 明礫(7.5YR6/6)	-																	
	シルト質砂 0 中粒砂が主となる。 1 堆積構造が認められる。 2 細かい礫(5YR6/4) 3 明礫(7.5YR6/6)	-																	
	砂礫~シルト混じり細粒砂 礫高10~20% 花崗岩、花崗斑岩の角~歪角礫、径10~100mmの礫主体。 0 基質はシルト混じり砂からなる。 1 一部に酸化汚染がみられる。 2 堆積構造が認められる。 3 下位のD1層、D2層との境界は、D3層が有り込んで埋没していることから不整合関係であると考えられる。 4 実質礫(7.5YR6/4) 5 礫(7.5YR6/6) 6 明礫(7.5YR6/6)	-																	
	礫混じり砂質シルト~砂礫 礫高7~15% 花崗岩、花崗斑岩の角~歪円礫、径20mm以下の礫主体。 0 基質はシルト混じり細~中粒砂からなる。 1 層下位のD1層との境界は、D3層中の堆積構造と斜交していることから不整合関係であると考えられる。 2 下部は礫の含有率が多い。 3 明赤礫(5YR6/6) 4 礫(7.5YR6/6)	-																	
	細粒・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の歪角礫、径10mm以下の礫を含む。 0 基質はシルト質細砂からなる。 1 礫(5YR6/6)	細粒・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の歪角礫、径10mm以下の礫を含む。 0 基質はシルト質細砂からなる。 1 礫(5YR6/6)																	色調(礫)と、色調を示す記号(5YR6/6)が一致していない。法面写真を確認し、色調(礫)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。

No.	礫砂層に関する記事	適正化すべき記事内容	礫砂層											記事・スケッチを削除・変更・追記した理由					
			礫砂層の性状	礫砂層の構成	内訳構造	断面構造	断面区分	礫砂層	礫砂層	礫砂層	礫砂層	礫砂層	礫砂層		礫砂層				

スケッチ名: D-1トレンチ 原電道路ピット島状頂盤部④ 1/20 スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

スケッチ



- ⑦層
- ・石礫混じり砂質シルト～石礫
 - ・明赤不層、橙 (5YR 5/6, 7.5YR 7/6)
 - ・花崗岩, 花崗斑岩の亜角～亜円石礫, 径 30～400mm の石礫主体。最大径 500mm の石礫を含む。
 - ・石礫率 20%
 - ・基質はシルト混じり系土～中粒立石砂となる。

- ⑧層
- ・石礫、シルト混じり砂
 - ・木登 (5Y6) 5YR 6/6
 - ・花崗岩, 花崗斑岩の亜角石礫, 径 20～400mm 程度の石礫主体。最大 600mm の石礫を含む。石礫率 5～10%。
 - ・基質はシルト質系土となる。
 - ・石少石礫混じり砂質シルト, 石少混じり粘土, 石少質シルトをレンズ状～層状に挟む。



作成日・確認日: 2022年3月28日
 確認者: [Redacted]

D-1トレンチ原電道路ピット島状頂盤部④ 1/20

青枠：⑧層の色調に関する部分

作成日 2022/3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.3.28

スケッチ名: O-1トレンチ 原電線路ピット鼻状頂盤跡⑧ 1/20 記事		スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(基準層)			
No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	地質名	地質の特徴				地層構造 地層境界の整合・不整合 の傾向・間隔と異なる状況 の有無や特異的な状況が認め られれば、それらについて記 載。	地層構造 の整合・不整合 の程度・連続性 など	土壌化など、地層 構造・地層境界で 示すもの	走向・傾斜 ・地層構造やせん断面の走向 ・傾斜を記載。 ・その測定も代表する箇所 で測定するものに、局所的 に傾斜や方向が変化してい る箇所では測定しない。	方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜	方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜	方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜 ・方位・傾斜	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
				・程度構成、理 の構成・性状 ・構造・連続性 ・厚さ	・傾斜の幅 ・傾斜の連続性	・含有物(有機 質、頁岩など)	・この地、間隔と異なる状況 の有無や特異的な状況が認め られれば、それらについて記 載。								
	砂質シルト 花崗岩、花崗斑岩の亜角礫、径20~40mm程度の礫主体、最大500mmの礫を含む。 礫率5~10% 砂質シルト質細砂からなる。 砂質シルト質シルト、砂質シルトをレンベク状~層状に挟む。 標(5/16/9)														
	砂質シルト 花崗岩、花崗斑岩の亜角礫、径20~40mm程度の礫主体、最大600mmの礫を含む。 礫率5~10% 砂質シルト質細砂からなる。 砂質シルト質シルト、砂質シルトをレンベク状~層状に挟む。 標(5/16/9)														色調(層)と、色調を示す記号 (5/16/9)が整合していない。法面写 真を参照し、色調(層)が定む。色 調を示す記号の書き間違いであると 判断した。
No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯												
			破砕帯区分 (5/6/16/9)	破砕部の性状 ・破砕部の種類 ・破砕部の物質 ・破砕部の連続性・連続性 ・破砕部が認められる岩片を主体とし、基質も同質化した岩片からなる 破砕部の有無	内部構造 ・破砕構造、塊状構造 ・構造・連続性、傾斜状 粘土など	断面構造区分 ・断面構造区分・断面 ・断面構造区分・断面 ・断面構造区分・断面	破砕帯 ・破砕帯 ・破砕帯 ・破砕帯 ・破砕帯	最新活動面 (認定した場合)	条線	変位・変形量 ・変位・変形量 ・変位・変形量 ・変位・変形量 ・変位・変形量	変位・傾斜 ・変位・傾斜 ・変位・傾斜 ・変位・傾斜 ・変位・傾斜	変位・傾斜 ・変位・傾斜 ・変位・傾斜 ・変位・傾斜 ・変位・傾斜	変位・傾斜 ・変位・傾斜 ・変位・傾斜 ・変位・傾斜 ・変位・傾斜	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由	
-															

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 原電・ふげん道路ピット_⑧層の記載)

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容	
原電ケ道路ツ東向き原図③法面ス	細礫・シルト混じり砂 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5Y6/6)	細礫・シルト混じり砂 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5Y6/6)		
原電ケ道路ツ東向き原図④法面ス	細礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径20mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5Y6/6)	細礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径20mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5Y6/6)	細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色(5Y6/6) 礫率5~10%で、礫は径2~4cm程度の垂角礫を含む。基質は、シルト質細砂からなり、細礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状~層状に挟む。	・礫率は観察面が最も広い原電道路頂部スケッチ原図④の記載を全体の代表とした。 ・色調(橙)と、色調を示す記号(5Y6/6)が整合していない。観察面写真を確認し、色調(橙)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
ふげんケ道路ツピット原図③東法面	細礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径10mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5Y6/6)	細礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径10mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5Y6/6)		
原電ケ道路頂部スケッチ原図④	礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径20~40mm程度の礫主体。最大600mmの礫を含む。 礫率5~10% 基質はシルト質細砂からなる。 砂礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土、砂質シルトをレンズ状~層状に挟む。 橙(5Y6/6)	礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径20~40mm程度の礫主体。最大600mmの礫を含む。 礫率5~10% 基質はシルト質細砂からなる。 砂礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土、砂質シルトをレンズ状~層状に挟む。 橙(5Y6/6)		

原電道路・ふげんピット写真

82のエビデンス (10/10)

東向き法面



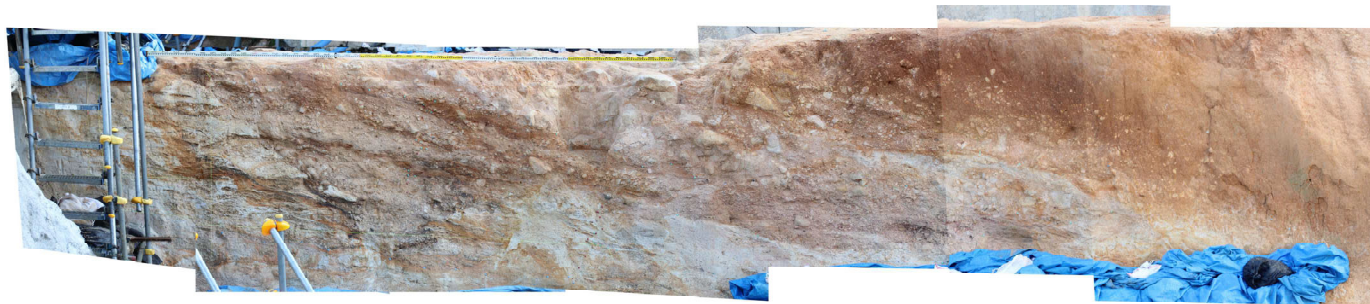
2015年10月撮影

島状頂盤



2015年9月撮影

ふげん道路
東法面



2015年10月撮影

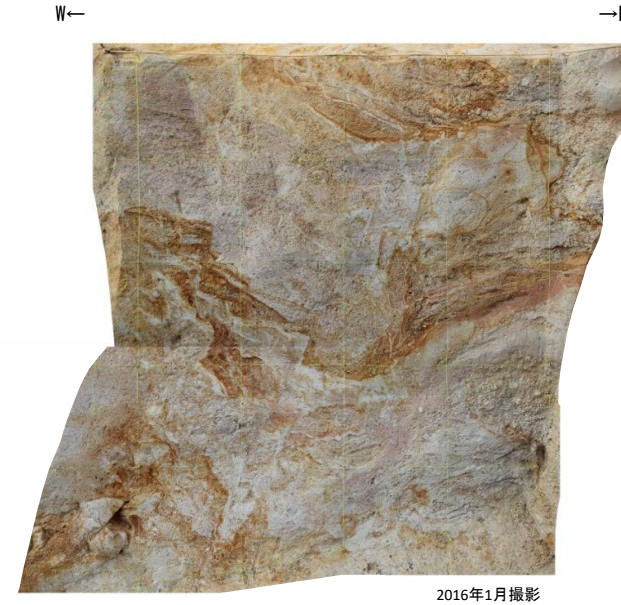
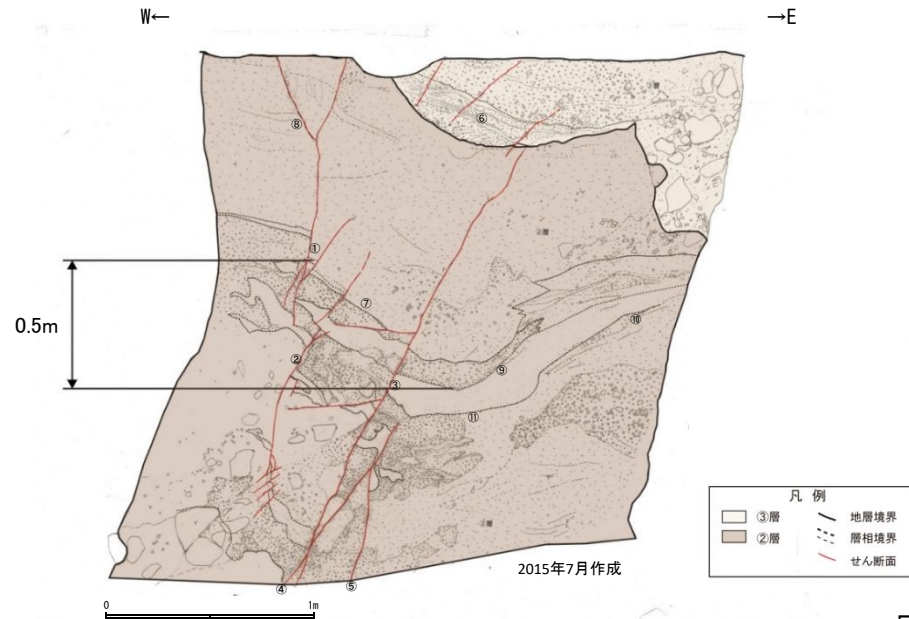
2m

K断層の性状(ふげん道路ピット)

83 (第833回審査会合資料)
修正箇所：橙色枠

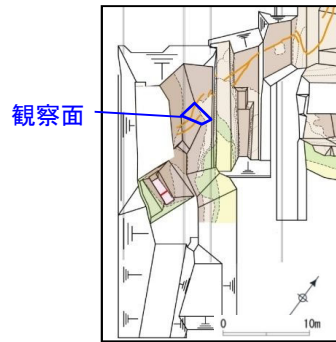
修正前

第536回審査会合
参考資料(1/3) 修正



- | | |
|------------------|-------------------|
| ① f: N29° W75° W | ⑥ b: N75° W39° N |
| ② f: N25° E76° W | ⑦ b: N30° W26° E |
| ③ f: N14° W62° W | ⑧ b: N57° W9° W |
| ④ f: N35° E75° W | ⑨ b: N77° E2° S |
| ⑤ f: N1° W70° W | ⑩ b: N47° E21° SE |
| f: せん断面 | ⑪ b: N5° W 10° W |
| b: 層理面 | |

K断層は数条に分岐しており、②層内の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で約0.5mである。



調査位置図

- ③層：砂礫 にぶい黄橙色～黄灰色 (10YR7/4～25Y6/11)
 礫は径20cm以下の角～垂角礫主体である。礫率30～50%
 基質は中粒砂～粗粒砂であり、淘汰極めて悪い。
 礫混じり砂 黄灰色～黄褐色を呈する。砂は細粒砂～粗粒砂であり、
 径5～50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟在して分布する。
- ②層：礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色 (2.5Y7/12～2.5Y7/2)
 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。
 砂質シルト 灰白色 (2.5Y7/1)
 シルトを主体とし、細粒砂が混じる。よく締まっている。

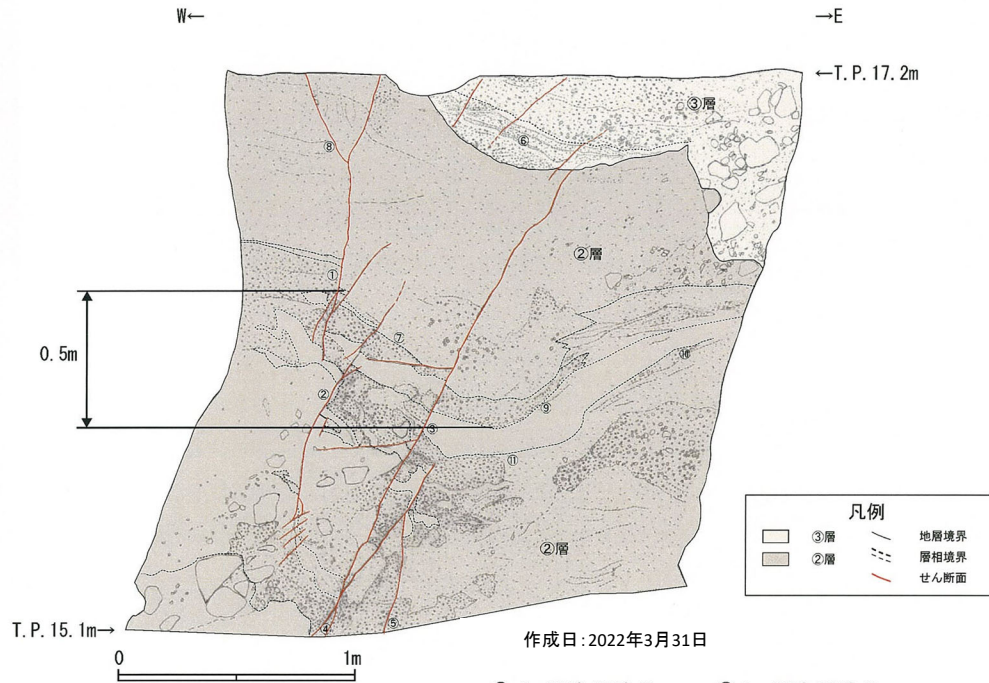
K断層の性状(ふげん道路ピット)

83 : ②層, ③層の色調修正

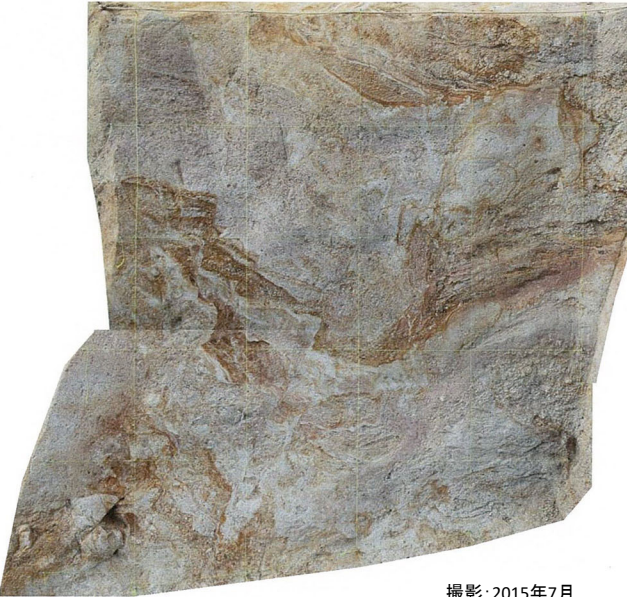
修正後

第833回審査会合
資料1 修正

・K断層は数条に分岐しており, ②層内の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で約0.5mである。

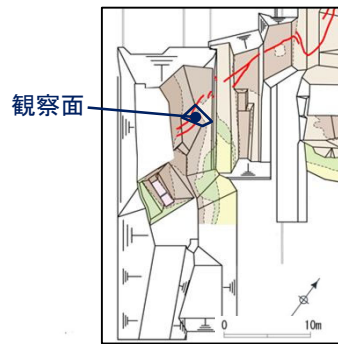


作成日: 2022年3月31日



撮影: 2015年7月

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ① f : N29° W75° W | ⑥ b : N75° W39° N |
| ② f : N25° E76° W | ⑦ b : N30° W26° E |
| ③ f : N14° W62° W | ⑧ b : N57° W9° W |
| ④ f : N35° E75° W | ⑨ b : N77° W2° S |
| ⑤ f : N1° W70° W | ⑩ b : N47° E21° SE |
| f : せん断面 | ⑪ b : N5° W10° W |
| b : 層理面 | |



調査位置図

- ③層: 砂礫 にぶい黄橙色~黄灰色 (10YR7/4~2.5Y6/1)
 礫は径20cm以下の角~垂角礫主体である。礫率30~50%
 基質は中粒砂~粗粒砂であり, 淘汰極めて悪い。
 礫混じり砂 黄灰色~黄褐色を呈する。砂は細粒砂~粗粒砂であり,
 径5~50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟在して分布する。
- ②層: 礫・シルト混じり砂 灰白色~灰黄色 (2.5Y7/1~2.5Y7/2)
 細粒砂~粗粒砂からなり, 径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。
 砂質シルト 灰白色 (2.5Y7/1)
 シルトを主体とし, 細粒砂が混じる。よく締まっている。

ふげん道路ピット東法面中段スケッチ

青枠：②層、③層の色調に関する部分

スケッチ名 D-1トレンチ ふげん道路ピット中段 1/10 スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

スケッチ

- ①層Ⅰ
- ・石灰質
 - ・1.2mm異径色へ黒灰色(0.075mm~0.5mm)
 - ・粘着力は30%以上(0.075mm~0.25mm)を主とする。
 - ・粘着力 70%~80%
 - ・層厚は中~厚粒砂ほど厚い。固く粘着力強い。
 - ・下位の②層上を埋めたいは、不整合関係でまばら

- ②層Ⅰ
- ・石灰質シルト
 - ・黒灰色~黒褐色を呈する。
 - ・石質は黒褐色の粘り砂より粘り砂の割合が多い。
 - ・粘り砂の割合
 - ・砂層中に挟みこめ分布する。
 - ・下位の③層Iを埋めたいは、不整合関係でまばら

- ③層Ⅰ
- ・石灰質シルト(黒い砂)
 - ・灰白色~黒褐色(0.075mm~0.25mm)
 - ・粘り砂~粘り砂の割合は30%以上(粘り砂の割合が多い)
 - ・粘り砂 15%~20%
 - ・粘り砂の割合が多い。

- ③層Ⅱ
- ・石灰質シルト
 - ・灰白色(0.075mm)
 - ・シルトを主とし、粘り砂が散在する。
 - ・まれに最大径0.2mmの礫を含む。
 - ・粘り砂 20%以上。
 - ・②層Ⅰ中に挟みこめ分布する。

- S1 北東断面
 ・S2の延長線上にあり。
 ・②層Ⅰの粘り砂が層を貫通している。(1)
- S2 北東断面
 ・S1, S3, S4の延長線上にあり。
 ・②層Ⅰの粘り砂が層を貫通している。(2)
- S3 北東断面
 ・S2の延長線上にあり。
 ・②層Ⅰを貫通している。(3)
- S4 北東断面
 ・S2, S3, S5の延長線上にあり。
- S5 北東断面
 ・同じ7.0の層厚の粘り砂が層を貫通している。(4)



- S6 北東断面
 ・S7, S8, S9の延長線上にあり。
 ・②層Ⅰの粘り砂が層を貫通している。(5)
- S7 北東断面
 ・S6の延長線上にあり。
 ・②層Ⅰの粘り砂が層を貫通している。(6)
- S8 北東断面
 ・S7の延長線上にあり。
- S9 北東断面
 ・S8, S10の延長線上にあり。
- S10 北東断面
 ・S9の延長線上にあり。
- S11 北東断面
 ・S10の延長線上にあり。
- S12 北東断面
 ・②層Ⅰの粘り砂が層を貫通している。(7)
- S13 北東断面
 ・②層Ⅰの粘り砂が層を貫通している。(8)
- S14 北東断面
 ・②層Ⅰを貫通している。(9)
- S15 北東断面
 ・②層Ⅰの粘り砂が層を貫通している。(10)
- S16 北東断面
 ・②層Ⅰの粘り砂が層を貫通している。(11)
- S17 北東断面
 ・S15, S16, S17の延長線上にあり。
 ・②層Ⅰを貫通している。(12)
- S18 北東断面
 ・S17の延長線上にあり。
 ・②層Ⅰを貫通している。(13)
- S19 北東断面
 ・S17, S18, S19の延長線上にあり。
 ・②層Ⅰを貫通している。(14)
- S20 北東断面
 ・S17, S18, S19, S20の延長線上にあり。
 ・②層Ⅰを貫通している。(15)
- S21 北東断面
 ・S20の延長線上にあり。

法面勾配 35°

縮尺 1/10

作成日・確認日：2022年3月28日

確認者：[Redacted]

a: 7°14'27.75"W	d: 4°14'17.0"W	h: 1°50'0.9"W
b: 1°50'0.9"W	e: 7°14'17.0"W	i: 1°50'0.9"E
c: 7°14'17.0"E	f: 6°14'25.35"E	j: 1°50'0.9"E
l: 1°50'0.9"E	g: 6°14'25.35"E	k: 1°50'0.9"W

83のエビデンス (4/6)

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ ふげん道路ピット中段 ②層の記載)

作成日 2022.6.17

作成者

確認日 2022.6.17

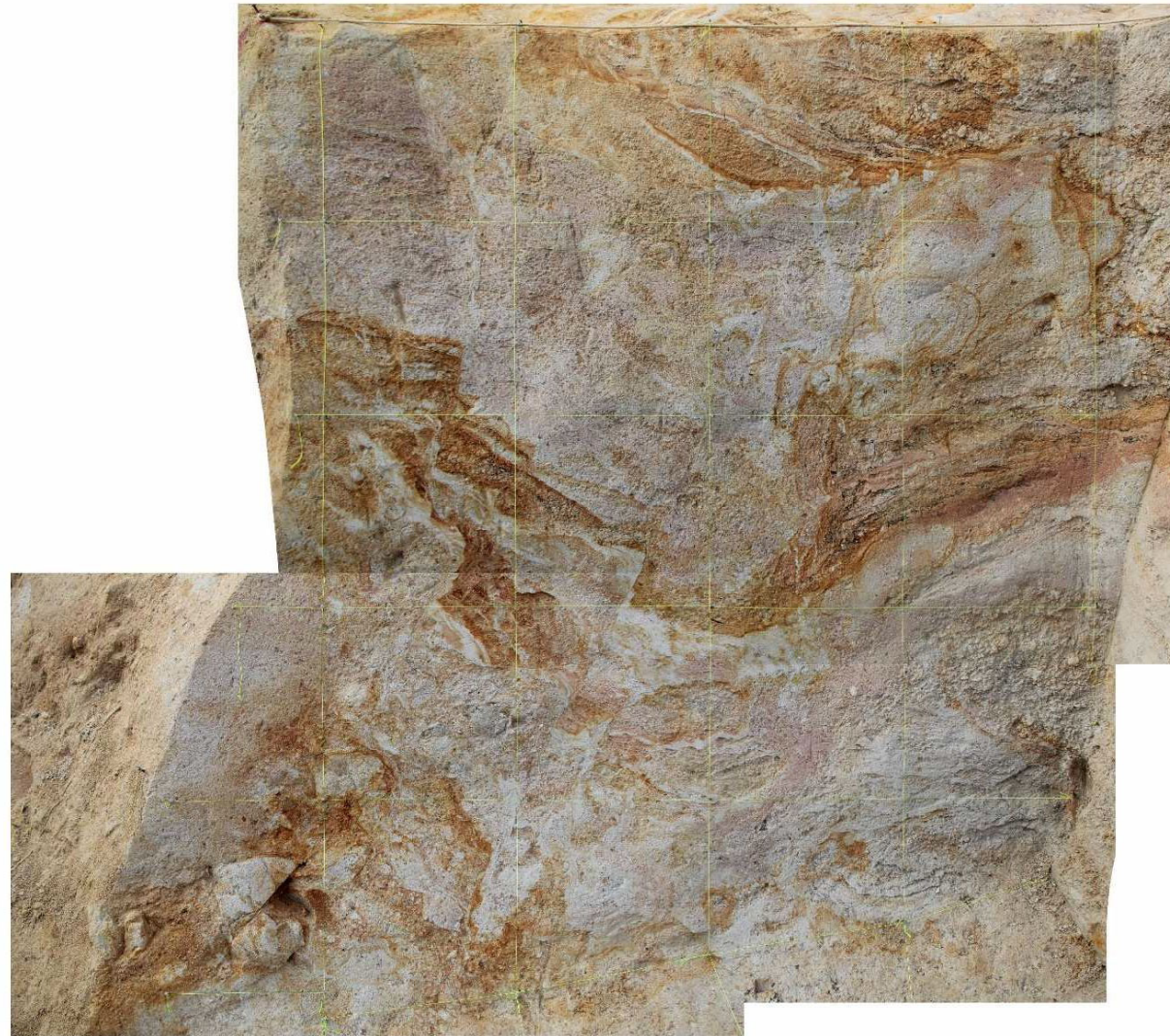
確認者

No.	スケッチ原図	報告書スケッチの記事	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ 削除・変更・追記した理由 (スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容 としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	
②層 I	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/12～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。 礫率15～20% くさり礫が混じる。	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。 礫率15～20% くさり礫が混じる。	
②層 II	砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし、細粒砂が混じる。 まれに最大径18cmの礫を含む。 よく締まっている。 ②層 I 中に挟まれて分布する。	②層・礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。 砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし、細粒砂が混じる。よく締まっている。	・色調(灰白色)と、色調を示す記号(2.5Y7/12)が整合していない。法面写真を確認し、色調(灰白色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ ふげん道路ピット中段_③層の記載)

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容	
③層 I	<p>砂礫 にふい黄橙色～黄灰色(10YR7/4～2.5Y6/11) 礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。 礫率30～50% 基質は中粒砂～粗粒砂であり、淘汰極めて悪い。 下位の②層 I を削り込んでいるため、不整合関係であると考えられる。</p>	<p>砂礫 にふい黄橙色～黄灰色(10YR7/4～2.5Y6/1) 礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。 礫率30～50% 基質は中粒砂～粗粒砂であり、淘汰極めて悪い。 下位の②層 I を削り込んでいるため、不整合関係であると考えられる。</p>	<p>③層: 砂礫 にふい橙色～黄灰色(10YR7/4～2.5Y6/1) 礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。礫率30～50% 基質は中粒砂～粗粒砂であり、淘汰極めて悪い。 礫混じり砂 黄灰色～黄褐色を呈する。砂は細粒砂～粗粒砂であり、径5～50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟在して分布する。</p>	<p>・色調(黄灰色)と、色調を示す記号(2.5Y6/11)が整合していない。 観察面写真を確認し、色調(黄灰色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。</p>
③層 II	<p>礫混じり砂 黄灰色～黄褐色を呈する。 砂は細粒砂～粗粒砂であり、径5～50mmの礫が混じる。 ラミナが発達する。 砂礫層中に挟在して分布する。 下位の②層 I を削り込んでいるため、不整合関係であると考えられる。</p>			

2015年7月撮影

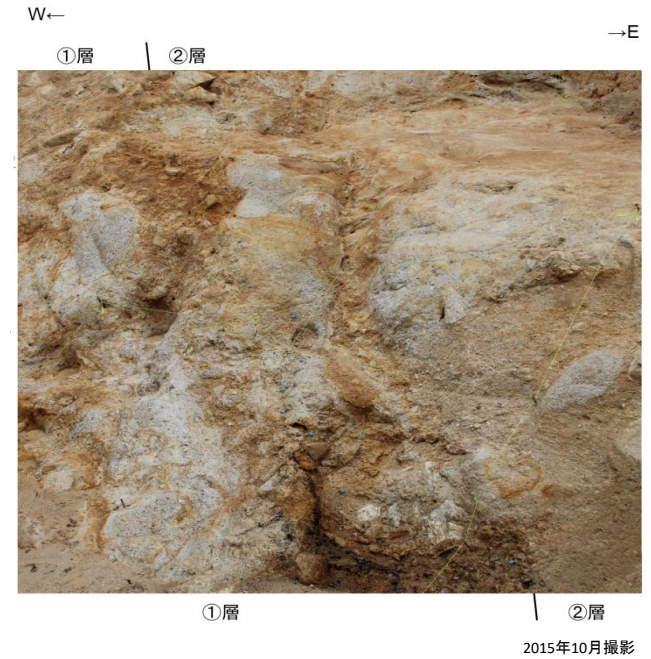
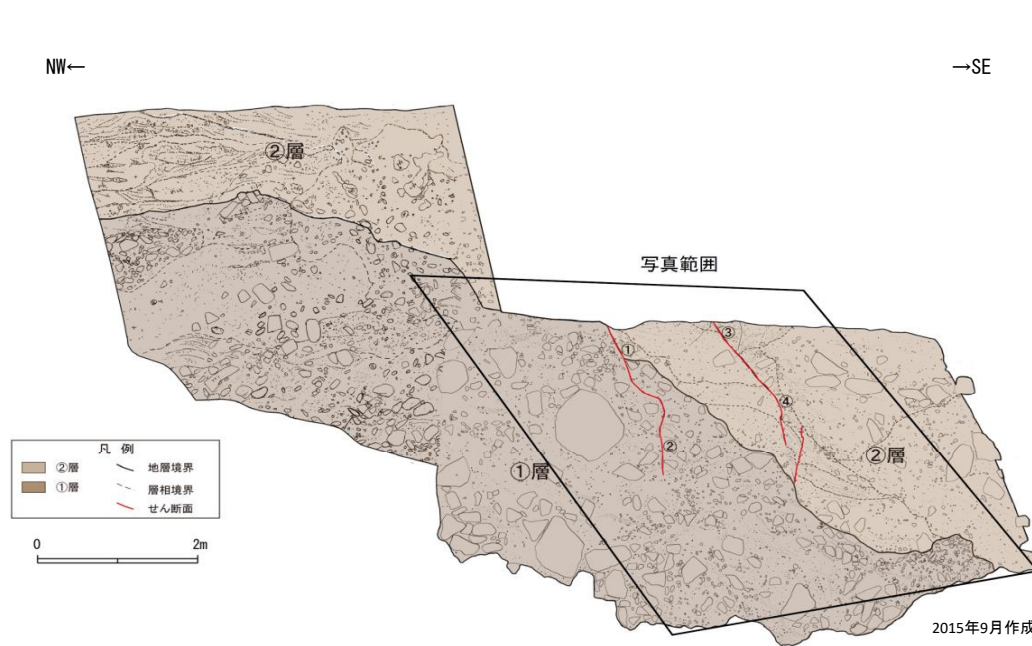


50cm



K断層の性状(ふげん道路ピット)

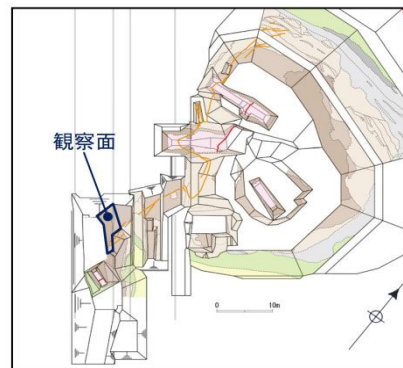
K断層の南方への連続性を追跡、確認した結果、K断層はふげん道路ピットの中央付近まで連続していることを確認。



②層：礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色 (2.5Y7/12)~2.5Y7/2)
細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。
砂質シルト 灰白色 (2.5Y7/1)
シルトを主体とし、細粒砂が混じる。よく締まっている。

①層：砂礫 にぶい赤褐色 (5YR4/3)
礫は径50cm以下の亜角礫を主体とする。礫率30～60%であり、淘汰は悪い。
基質は粗～中粒砂で固く締まっている。

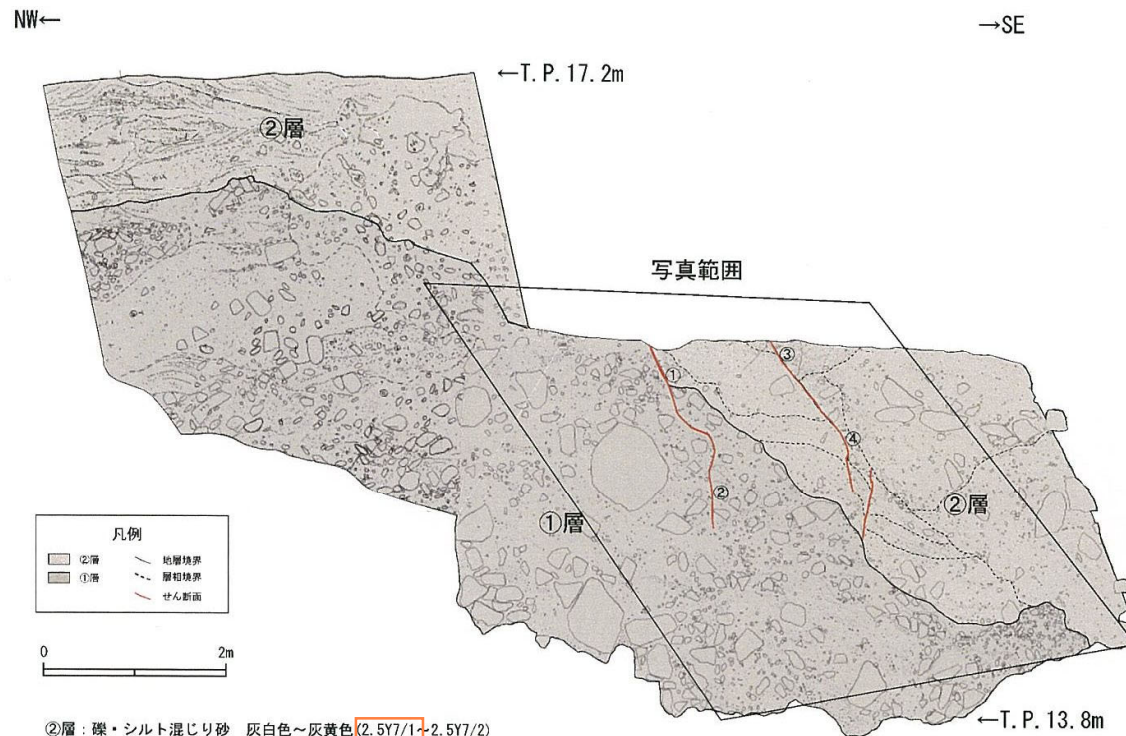
- ① f : N31° W62° W
- ② f : N1° W58° W
- ③ f : N5° W67° W
- ④ f : N1° E47° W
- f : せん断面



調査位置図

K断層の性状(ふげん道路ピット)

K断層の南方への連続性を追跡, 確認した結果, K断層はふげん道路ピットの中央付近まで連続していることを確認。

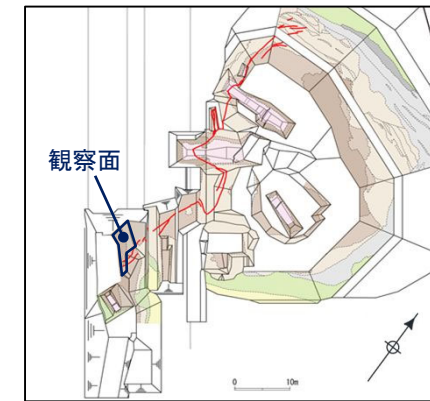


②層: 礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色 (2.5Y7/1→2.5Y7/2)
 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。
 砂質シルト 灰白色 (2.5Y7/1)
 シルトを主体とし、細粒砂が混じる。よく締まっている。

①層: 砂礫 にぶい赤褐色 (5YR4/3)
 礫は径50cm以下の亜角礫を主体とする。礫率30～60%であり、淘汰は悪い。
 基質は粗～中粒砂で固く締まっている。

- ① f: N31° W62° W
- ② f: N1° W58° W
- ③ f: N5° W67° W
- ④ f: N1° E47° W
- f: せん断面

作成日: 2022年3月31日



撮影: 2015年10月

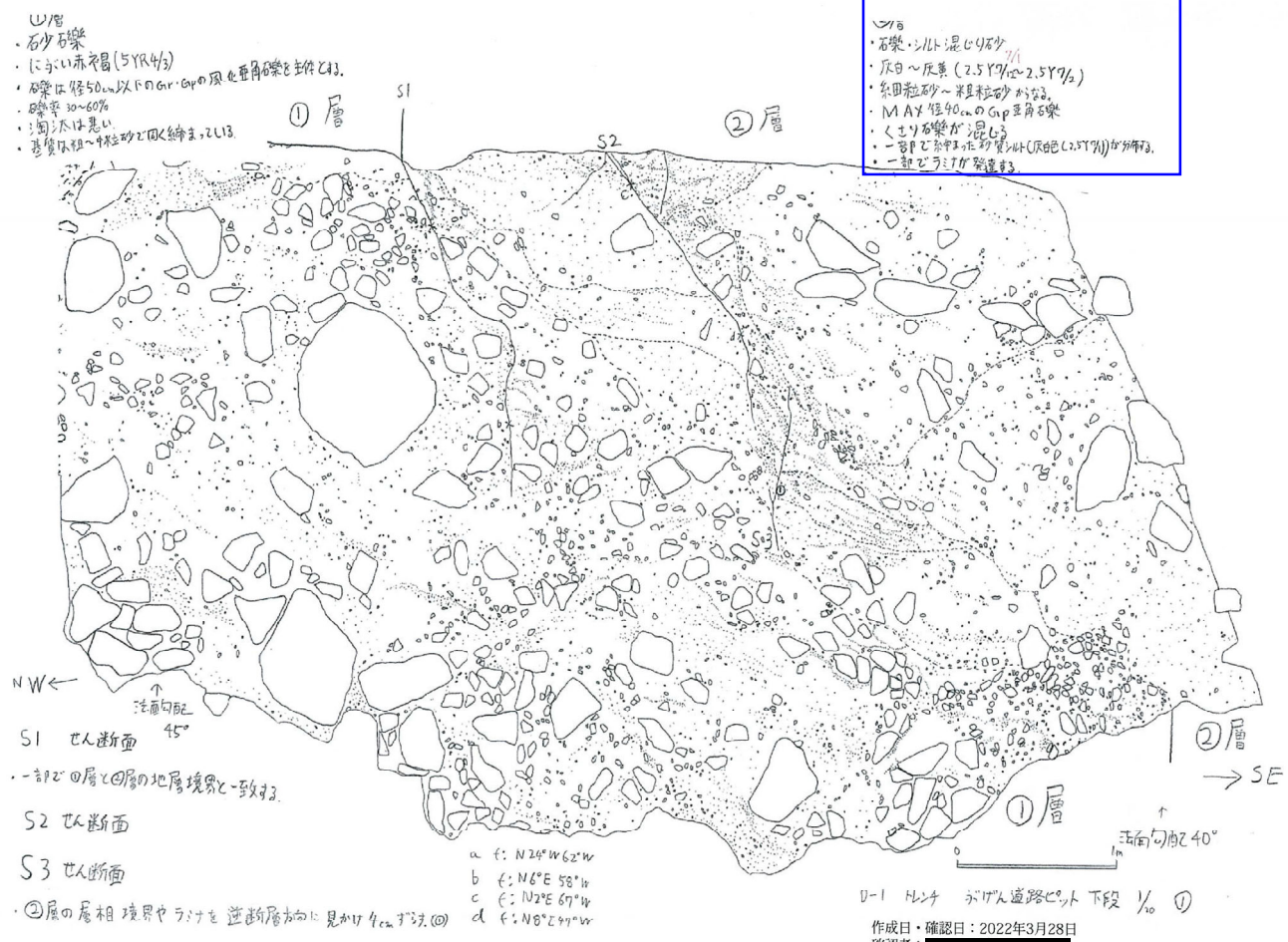
青枠：②層の色調に関する部分

84のエビデンス (1/5)

スケッチ名 D-1トレンチ ふげん道路ピット下段 ① 1/20 スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

スケッチ



青枠：②層の色調に関する部分

作成日 2022/3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.3.28

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由				
			地質名	地質の特徴				地層境界	地層構造	土質など 地層表示の	定向・傾斜	地質名		風化・変質	割れ目・せん断割れ目	色調	走向・傾斜
				・粒度構成、隙の充填・形状、隙の充填、隙まり具合	隙の風化	・含有物(有機質、異状など)	・その他、異状と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載										
2	<p>層-シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(SY7/12～2SY7/2) 層厚約～種粒砂からなる。 MAX径40cmのGpを有する。 一部で粗砂の砂質シルト(灰白色(SY7/11))が分布する。 一部でラマナが発達する。</p>	<p>層-シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(SY7/1～2SY7/2) 層厚約～種粒砂からなる。 MAX径40cmのGpを有する。 くさりが混じる。 一部で粗砂の砂質シルト(灰白色(SY7/11))が分布する。 一部でラマナが発達する。</p>															色調(灰白色)と、色調を示す記号(SY7/12)が一致していない。追加写真を確認。色調(灰白色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
3	<p>砂礫 ① Si+赤褐色(SY4/3) ② 層厚は50cm以下のG+Gpの風化垂角礫を主体とする。 層厚約～50% 海浜は悪い。 腐質は層～中粒砂で固く固まっている。</p>																

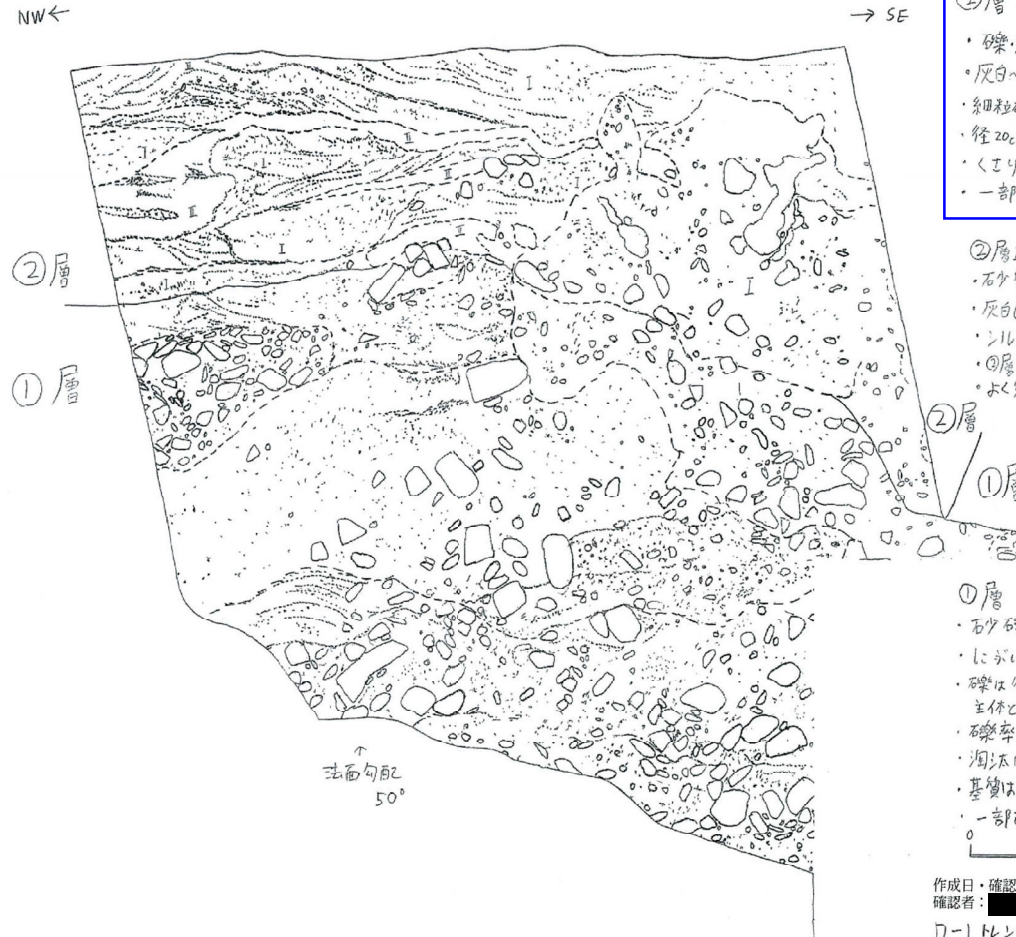
No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕部										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由				
			破砕度区分(Hz/Hp)	破砕部の性状 ・破砕部の種 ・破砕部内物質 ・種 ・破砕部の連続性・連続性 ・種別破砕が認められる場合は、それらについて記載	内部構造 ・種別構造、種別面構造、葉理構造、種目状結晶など	断面区分 ・断面がラッシュ・断面角質・カクレーサイトに区分し記載	破砕種 (実測できる場合)	最新活動面 (認定した場合)	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する層厚で測定する。あるいは、至せん断面について複数面で測定する。					
a	F.N24° W62° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
b	F.N6° E58° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
c	F.N2° E57° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
d	F.N8° E47° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S1	せん断面 一部で1層と2層の地層境界と一致する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S2	せん断面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S3	せん断面 2層の層理構造やラマナを逆断層方向に見かけ4cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

スケッチ名 D-1トレンチ ふげん道路ピット下段 ② 1/20 スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

スケッチ



②層 I
 ・礫・シルト混じり石少
 ・灰白～灰黄(2.5Y7/2～2.5Y7/4)
 ・細粒砂～粗粒砂 が多い
 ・径 20cm 以下の Gr・Gp 礫を含む
 ・くさり礫が混じる
 ・一部でラミが露出している。

②層 II
 ・石少シルト
 ・灰白(2.5Y7/1)
 ・シルトを主体とし、糸田粒砂が混じる
 ・②層 I 中に層状～乱層状に多く混みれ分布する
 ・よく糸田ま、ている。

①層
 ・石少礫
 ・にがい赤褐(5YR4/3)
 ・礫は径 50cm 以下の Gr・Gp の風化変質礫を主体とする
 ・礫率 30～40%
 ・淘洗は悪い
 ・基質は粗～中粒石で固く締まっている
 ・一部で弱い西酸化を受けている

作成日・確認日：2022年3月28日
 確認者：[Redacted]
 D-1トレンチ ふげん道路ピット下段 1/20 ②

青枠：②層の色調に関する部分

2022/3/28



確認日 2022.3.28

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原因(第四系)										スケッチ原因(基盤岩)				記事・スケッチを削除・変更・追記した理由		
			地質名	地質の特徴				地層境界	地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その種類も併せて記載	地層構造	土質化など 地層環境・時間関係を示すもの	走向・傾斜	走向・傾斜	走向・傾斜	走向・傾斜				
				・粒度構成、礫の産状、産生、集積、産り具合	・礫の風化	・含有物(有機質、貝殻など)	・その他、風化と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載									・層理、葉理、結晶化		・走向・傾斜	・風化・変質
②層	②層 種・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(SY7/12～2SY7/2) 細粒砂～粗粒砂となる。 径20cm以下のG+Gpの礫を含む。 くさび層が混入する。 一部でラミナが発達している。	種・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(SY7/11～2SY7/2) 細粒砂～粗粒砂となる。 径20cm以下のG+Gpの礫を含む。 くさび層が混入する。 一部でラミナが発達している。	○	○	○			○	○										色調(灰白色)と、色調を示す記号(SY7/12)が混入していない。追加する場合は、色調(灰白色)が混入している箇所を示す記号の書き間違いであると判断した。
②層	②層 砂質シルト 灰白色(SY7/11) シルトを主体とし、細粒砂が混入する。 ①層1中に泥質シルトが互層して分布する。 よく締まっている。		○	○	-			○	○										
①層	①層 砂質 灰白色(SY7/11) シルトを主体とし、細粒砂が混入する。 ①層1中に泥質シルトが互層して分布する。 よく締まっている。		○	○	○	-			○										

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由						
			破砕帯区分 (H4,H5,H6)	破砕帯の性状 ・破砕帯の厚さ ・破砕帯の形状 ・破砕帯の連続性・連続性 ・貫通地層が認められる破片を主体とし、基質も細粒化した破片からなる地層の有無	内部構造 ・地層構造、理合面構造、葉理構造、扇目状粘土など	断層帯区分 ・断層がクラッシュ断層か、角礫・カクレーサイズFに区分し記載	破砕帯 (実測できる場合)	最新活動面 (認定した場合)	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所を測定する。あるいは、主せん断面に沿って複数箇所を測定する。								
-																			

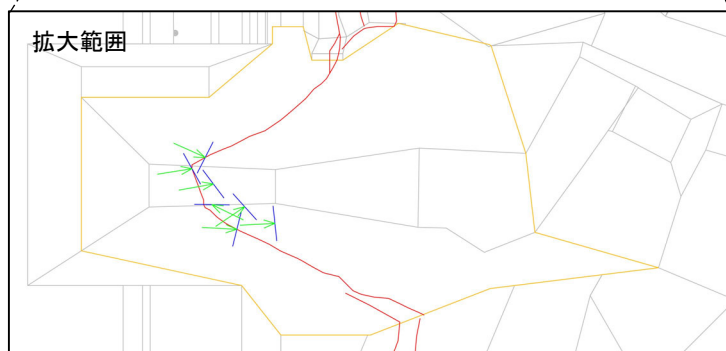
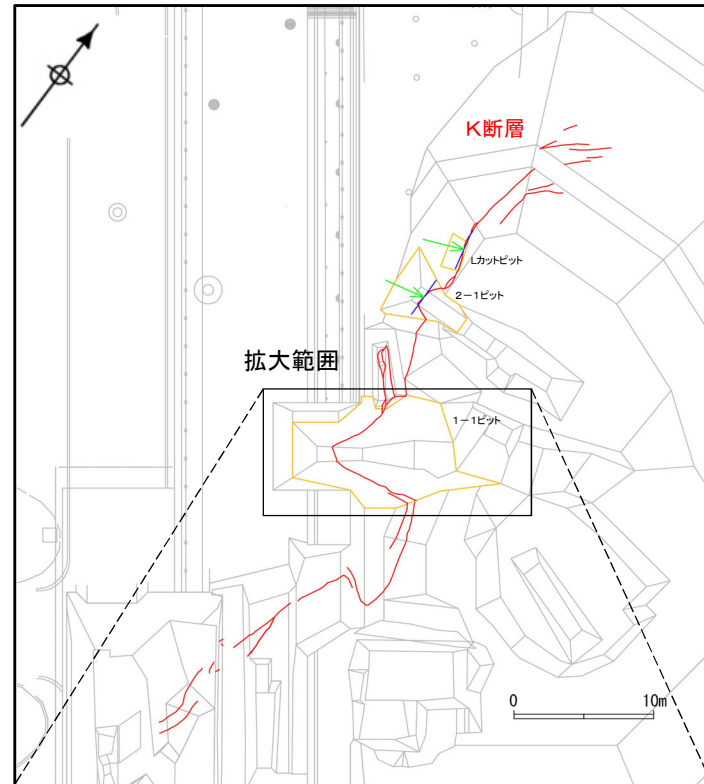
スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ ふげん道路ピット下段_②層の記載)

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容	
スケッチ原図 ピット下段 ①ふげん道路	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/12～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 MAX径40cmのGp垂角礫。 くさり礫が混じる。 一部で締まった砂質シルト(灰白色(2.5Y7/1))が分布する。 一部でラミナが発達する。	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 MAX径40cmのGp垂角礫。 くさり礫が混じる。 一部で締まった砂質シルト(灰白色(2.5Y7/1))が分布する。 一部でラミナが発達する。		
スケッチ原図 ピット下段 ②ふげん道路 I	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/12～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 ② 径20cm以下のGr・Gp礫を含む。 くさり礫が混じる。 一部でラミナが発達している。	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 径20cm以下のGr・Gp礫を含む。 くさり礫が混じる。 一部でラミナが発達している。	②層:礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩垂角礫が混じる。くさり礫が混じる。 砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし、細粒砂が混じる。よく締まっている。	・含まれる礫の礫径は最大径(40cm)とした。 ・色調(灰白色)と、色調を示す記号(2.5Y7/12)が整合していない。法面写真を確認し、色調(灰白色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
スケッチ原図 トレンチ下段 ②ふげん道路 II	砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし、細粒砂が混じる。 ②層 I 中に層状～レンズ状に多く挟まれて分布する。 よく締まっている。			

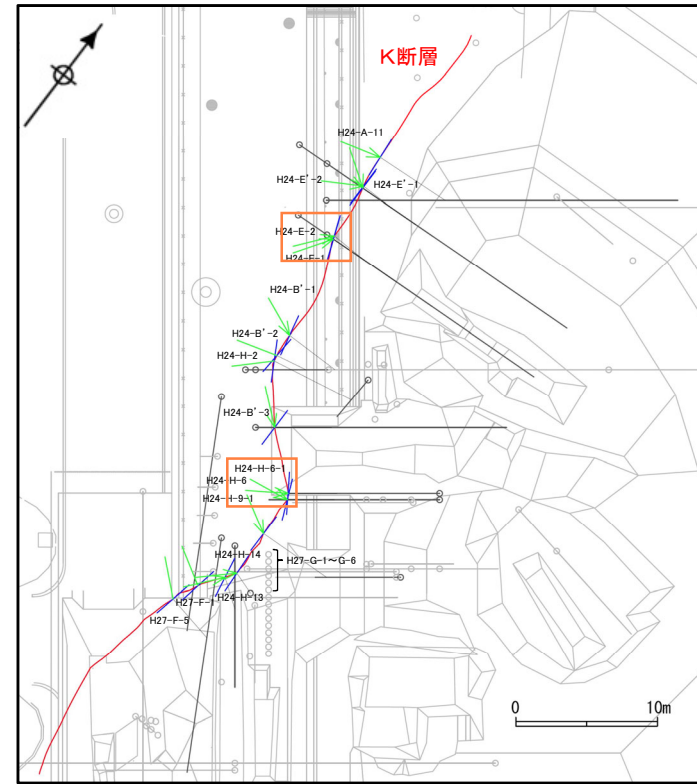
余白

K断層の性状

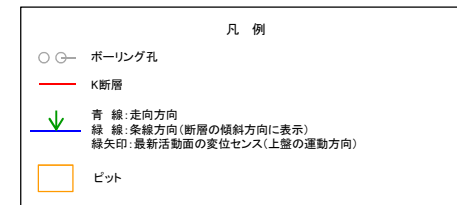
- 基盤岩中でK断層の走向・傾斜を確認した箇所における条線方向及び最新活動面の変位センスを示す(左図:ピット調査結果, 右図:ボーリング調査結果)。
- K断層は、1-1ピット付近で局所的に走向をNW-SE方向に変えるが、大局的にはN-S走向, 高角度西傾斜, 最新活動面の変位センスが逆断層センス卓越の特徴を有する破碎帯である。



K断層の確認箇所(ピット, 地表面投影)



K断層の確認箇所(ボーリング, T.P.-15mに投影)



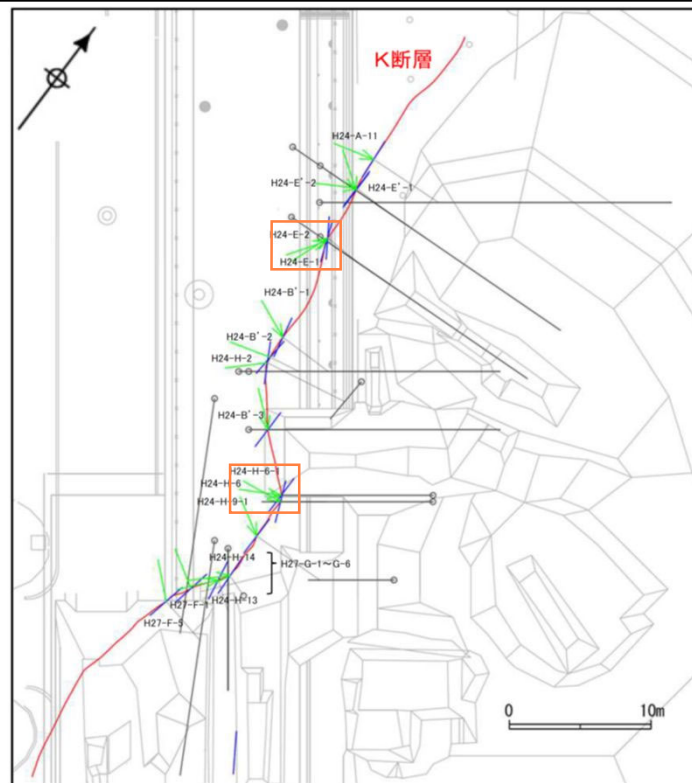
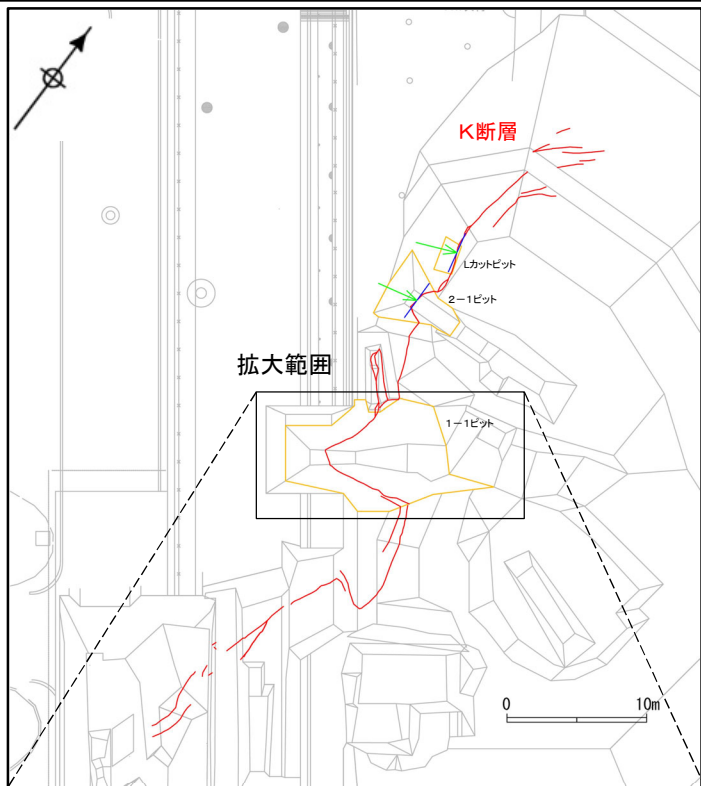
K断層の性状

85:2, 4の最新活動面深度及び走向・傾斜を修正した箇所を反映

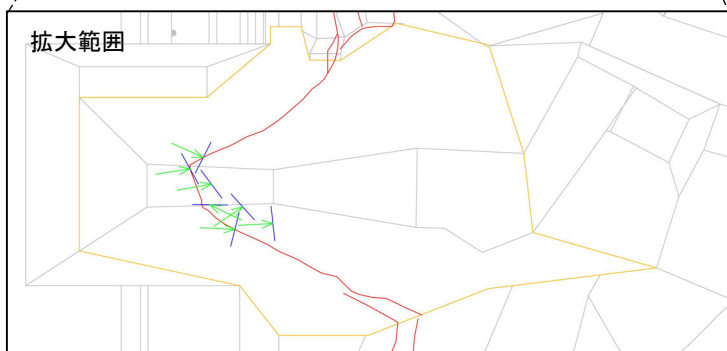
修正後

第833回審査会合
資料1 修正

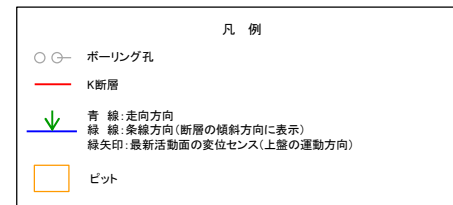
- 基盤岩中でK断層の走向・傾斜を確認した箇所における条線方向及び最新活動面の変位センスを示す(左図:ピット調査結果, 右図:ボーリング調査結果)。
- K断層は, 1-1ピット付近で局所的に走向をNW-SE方向に変えるが, 大局的にはN-S走向, 高角度西傾斜, 最新活動面の変位センスが逆断層センス卓越の特徴を有する破碎帯である。



K断層の確認箇所(ボーリング, T.P.-15mに投影)



K断層の確認箇所(ピット, 地表面投影)



K断層の連続性評価について

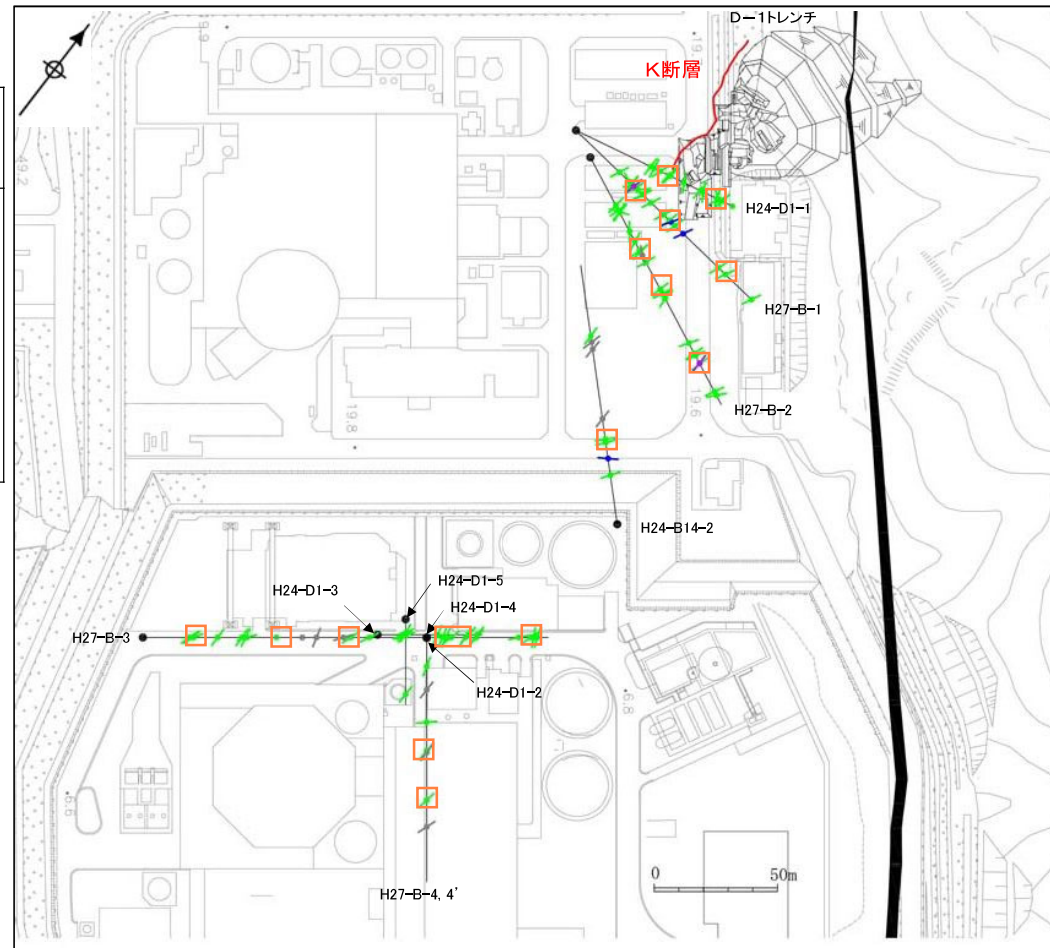
K断層との連続性を検討する上で重要なデータの追加観察/追加データの取得

- K断層及びK断層南方の破碎部の性状を示すデータについては、K断層との連続性を検討する上で重要なデータであることから、追加観察や追加データの取得を行った。追加観察及び追加データの取得の内容を以下に示す。
- 具体的には、①これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部のうち、薄片試料を作成したものについては薄片観察結果に基づく断層岩区分、②条線方向の追加データの取得、③最新活動面の変位センスの追加データの取得である。
- なお、断層岩については、ボーリングコアの肉眼観察による区分を基本としているが、より詳細な観察データである薄片試料の観察結果も踏まえた区分を行った。

追加観察及び追加データの取得の内容

K断層	【追加観察】 ②条線方向：周囲の確認箇所と運動方向が大きく異なる破碎部について、条線方向の追加観察を実施
K断層南方の破碎部	【追加観察】 ①断層岩区分：これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部について、薄片観察結果に基づく断層岩区分を実施 【追加データの取得】 ②条線方向：これまで条線方向を取得していなかった破碎部について、データを追加 ③最新活動面の変位センス：これまで最新活動面の変位センスを取得していなかった破碎部について、データを追加

凡例	
●	ボーリング孔
○	トレンチ
—	浦底断層 (T.P. -15m)
—	K断層 (T.P. -15m)
↔	破碎部
↔	既往の薄片試料の追加観察(断層岩区分)を行った破碎部
↔	新たに作成した薄片試料の観察(断層岩区分、最新活動面の変位センス)を行った破碎部
↔	新たに条線方向を取得した破碎部

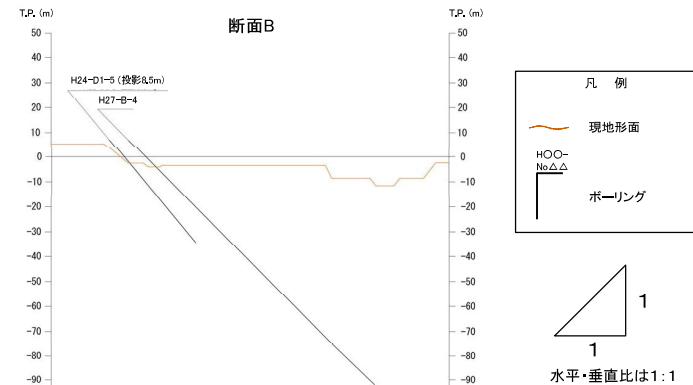
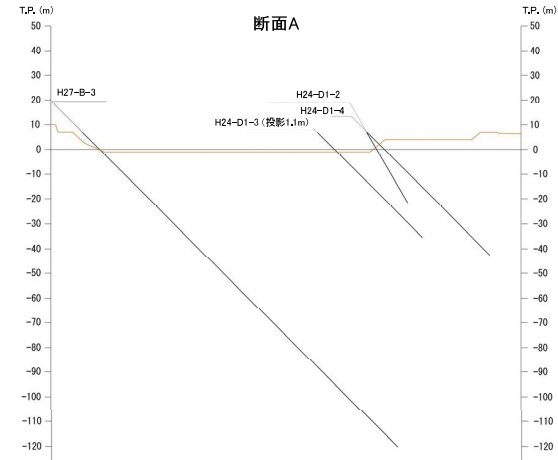
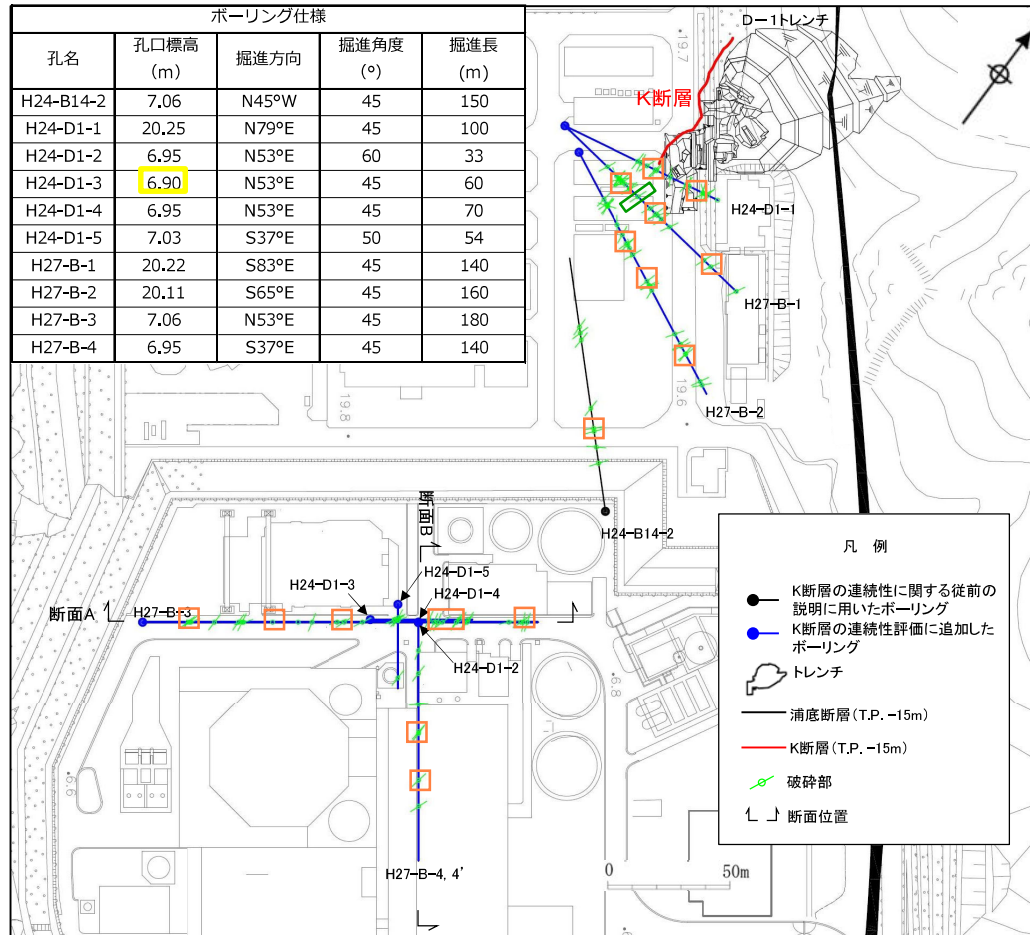


追加観察又は追加データを取得した破碎部

K断層の連続性評価について

K断層の連続性評価に関する従前の説明からの追加データ

- 主要な論点の一つに「敷地内のD-1 トレンチ内に認められるK断層の活動性及び原子炉建屋直下を通過する破砕帯との連続性等の調査・評価結果を従前の説明に加えて申請時の最新知見に照らして説明すること。」がある。
- このうち、K断層の連続性評価については、従前の説明ではK断層と2号炉原子炉建屋等の重要施設の間を横断するH24-B14-2孔を代表させて、K断層の南方にはK断層の性状と類似する破砕帯が無いことを示してきた(K断層とは性状が類似しないD-1破砕帯については、H24-D1-1~5孔の該当箇所を示してきた)。
- K断層の連続性に関する従前の説明に用いたデータに加え、K断層と重要施設の間に位置する**10孔**のボーリングのデータ(破砕部の走向・傾斜、断層ガウジ・断層角礫の有無、条線方向、最新活動面の変位センス)も踏まえたK断層の連続性検討結果を示す。



K断層南方の調査位置および対象のボーリング仕様

K断層の連続性評価の考え方

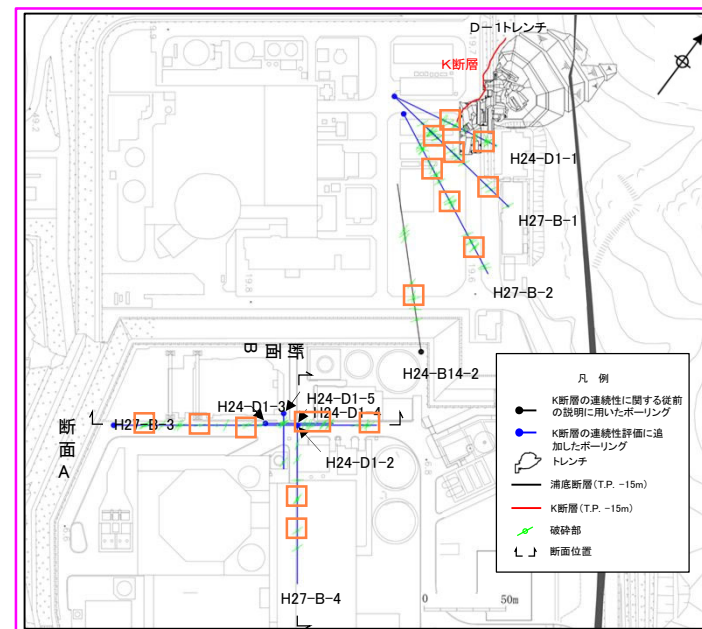
K断層の原子炉建屋直下方向への連続性を確認するための考え方を以下に示す。

敦賀発電所敷地内破碎部の連続性評価の考え方に基づく検討(方法1)

K断層についても、敦賀発電所敷地内破碎部の連続性評価の考え方に基づき、K断層が確認されているD-1トレンチに最も近いH24-D1-1孔の検討を実施する。

ボーリング仕様				
孔名	孔口標高 (m)	掘進方向	掘進角度 (°)	掘進長 (m)
H24-B14-2	7.06	N45°W	45	150
H24-D1-1	20.25	N79°E	45	100
H24-D1-2	6.95	N53°E	60	33
H24-D1-3	6.90	N53°E	45	60
H24-D1-4	6.95	N53°E	45	70
H24-D1-5	7.03	S37°E	50	54
H27-B-1	20.22	S83°E	45	140
H27-B-2	20.11	S65°E	45	160
H27-B-3	7.06	N53°E	45	180
H27-B-4	6.95	S37°E	45	140

注：H27-B-4 孔には再掘削孔であるH27-B-4'孔を含む



K断層南方の調査位置および対象のボーリング孔と仕様

K断層の連続性評価における更なる検討(方法2)

2-79 : K断層南方10孔の破碎部のうち、最新活動面深度及び走向・傾斜を修正した箇所を反映

K断層の連続性評価においては、いずれかのボーリング孔において、K断層と類似する破碎部が存在しなかった場合においても、K断層に関する有識者会合での指摘^(注)やK断層が短区間で屈曲する特徴を有していることを踏まえ、D-1トレンチに最も近いH24-D1-1孔の起点破碎部から走向・傾斜が±20°の範囲外の破碎部について検討を実施する。(方法2-①)

また、念のため、対象ボーリング孔で確認された全破碎部に関して、K断層の性状(K断層との走向・傾斜の差を含む)との比較を実施する。(方法2-②)

(注) 評価書の総合評価：K断層の連続性については、D-1トレンチ及び原電道路ピットよりも南方へ連続している可能性があり、D-1破碎帯等、原子炉建屋直下を通過する破碎帯のいずれかと一連の構造である可能性が否定できない。

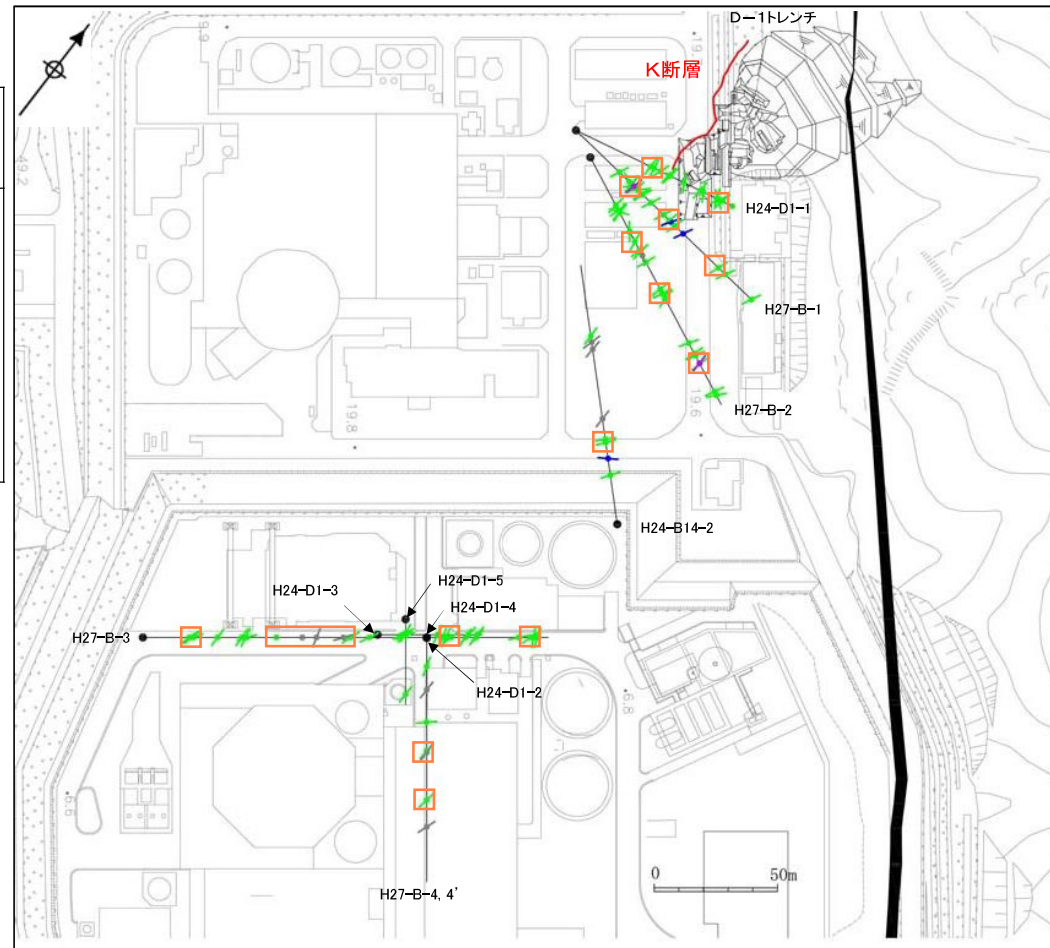
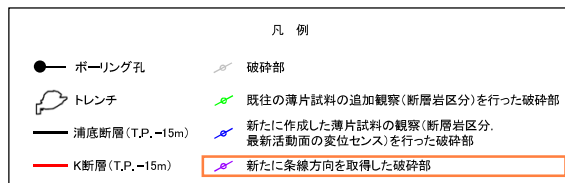
K断層の連続性評価について

K断層との連続性を検討する上で重要なデータの追加観察/追加データの取得

- K断層及びK断層南方の破碎部の性状を示すデータについては、K断層との連続性を検討する上で重要なデータであることから、追加観察や追加データの取得を行った。追加観察及び追加データの取得の内容を以下に示す。
- 具体的には、①これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部のうち、薄片試料を作成したものについては薄片観察結果に基づく断層岩区分、②条線方向の追加データの取得、③最新活動面の変位センスの追加データの取得である。
- なお、断層岩については、ボーリングコアの肉眼観察による区分を基本としているが、より詳細な観察データである薄片試料の観察結果も踏まえた区分を行った。

追加観察及び追加データの取得の内容

K断層	<p>【追加観察】</p> <p>②条線方向：周囲の確認箇所と運動方向が大きく異なる破碎部について、条線方向の追加観察を実施</p>
K断層南方の破碎部	<p>【追加観察】</p> <p>①断層岩区分：これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部について、薄片観察結果に基づく断層岩区分を実施</p> <p>【追加データの取得】</p> <p>②条線方向：これまで条線方向を取得していなかった破碎部について、データを追加</p> <p>③最新活動面の変位センス：これまで最新活動面の変位センスを取得していなかった破碎部について、データを追加</p>



追加観察又は追加データを取得した破碎部

K断層の連続性評価について

K断層との連続性を検討する上で重要なデータの追加観察/追加データの取得

- K断層及びK断層南方の破碎部の性状を示すデータについては、K断層との連続性を検討する上で重要なデータであることから、**第833回審査会合までに追加観察や追加データの取得を行った。**追加観察及び追加データの取得の内容を以下に示す。
- 具体的には、①これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部のうち、薄片試料を作成したものについては薄片観察結果に基づく断層岩区分、②条線方向の追加データの取得、③最新活動面の変位センスの追加データの取得である。
- **断層岩については、より詳細な観察データである薄片観察を実施している場合は、連続性評価には薄片観察による評価を用いることとした。**
- **また、今回、追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分の追加観察を行った。**

第833回審査会合までに実施した追加観察及び追加データの取得の内容

K断層	<p>【追加観察】</p> <p>②条線方向：周囲の確認箇所と運動方向が大きく異なる破碎部について、条線方向の追加観察を実施</p>
K断層南方の破碎部	<p>【追加観察】</p> <p>①断層岩区分：これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部について、薄片観察結果に基づく断層岩区分を実施</p> <p>【追加データの取得】</p> <p>②条線方向：これまで条線方向を取得していなかった破碎部について、データを追加</p> <p>③最新活動面の変位センス：これまで最新活動面の変位センスを取得していなかった破碎部について、データを追加</p>

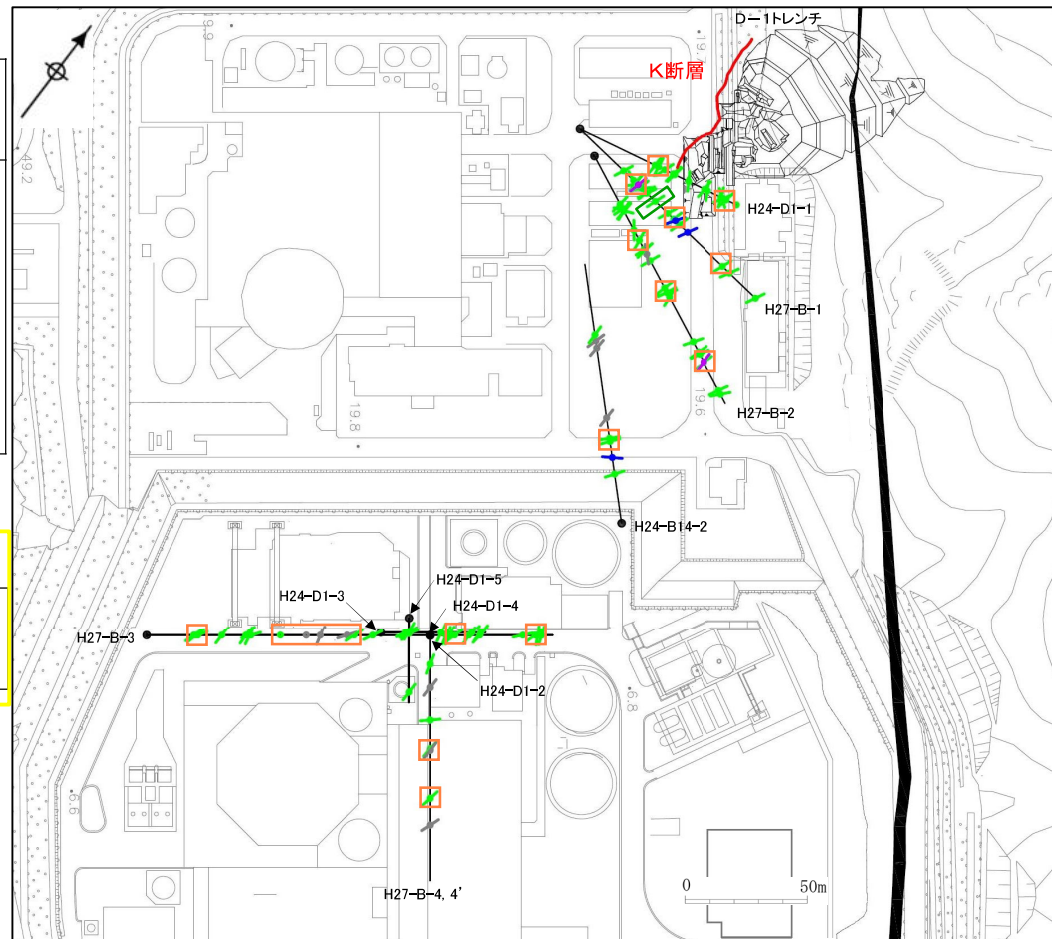
今回実施した追加観察の内容

K断層及びK断層南方の破碎部	<p>【追加観察】</p> <p>④断層岩区分：追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分を実施</p>
----------------	--

凡例

- ボーリング孔
- トレンチ
- 浦底断層 (T.P., -15m)
- K断層 (T.P., -15m)
- 肉眼観察による断層岩区分を行った破碎部
- 既往の薄片試料の追加観察(断層岩区分)を行った破碎部(※)
- 第833回審査会合までに新たに作成した薄片試料の観察(断層岩区分、最新活動面の変位センス)を行った破碎部(※)
- 第833回審査会合までに新たに条線方向を取得した破碎部

※ 今回、追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分の追加観察を行った。



追加観察又は追加データを取得した破碎部